

たなごめ
1969



愛知県常滑市勢要覧

市庁舎竣工・市制15周年記念

●目 次

発刊にあたって..... 1
 沿革..... 3
 自然..... 4
 人口..... 6
 行政..... 8
 市議会.....10
 財政.....12
 競艇事業.....14
 国民健康保険事業.....16
 市民病院事業.....17
 陶芸研究所事業.....18
 水道事業.....20
 産業.....22
 商業.....26
 農業.....28
 水産業.....30
 土木建設.....32
 教育文化.....36
 社会福祉.....42
 保健衛生.....44
 治安.....46
 交通安全.....47
 消防.....48
 交通.....50
 通信.....52
 市民生活.....53
 観光.....54
 官公庁・市内案内図...58
 常滑音頭・常滑小唄...60

○表 紙

名 称	常滑市庁舎
所 在 地	常滑市字鯉江新開476番地
着 工	昭和42年12月19日
竣 工	昭和44年 4 月19日
敷地面積	11,692.00㎡
建築面積	3,228.80㎡
延べ面積	8,383.60㎡
	地元常滑の特産焼物が各所に仕上材として多く用いられ市庁舎を特徴づけている

市 章



(昭和30年 6 月制定)

常滑市の「常」の字を、杉本健吉氏が図案化したもので、市民の団結と市勢の発展を表わしている。

市庁舎竣工 市制15周年を迎えて——



常滑市長・久田慶三

発刊にあたって

新らしい地方自治の息吹きともいうべき町村合併促進法の趣旨により隣接5か町村が合併して常滑市が誕生してから15年を迎えました。財政再建、伊勢湾台風などかずつの試練に遭遇しながらもみなさま方のあたたかいお力添えによって新興都市としての形態を整えつつ、順調な発展を遂げてまいりましたことはまことに喜びに堪えないところで、関係各位のご指導とご協力に対しまして改めて深甚なる謝意を申し述べるものであります。

市制施行以来の念願でありました市庁舎が、全市民待望のうちに近代的な機能をそなえて竣工し、能率とサービスの向上をめざして開庁のはこびとなりましたことは、躍進する常滑市の象徴とも申すべくこの上ないよろこびでございます。

近年のめまぐるしい社会、経済の変革は、地方行政の分野においても幾多の課題を与えておりますが、市民の快適かつ安全な生産と生活の保障を目標に、一層の創意と勇断をもって努力したいと念願しているものであります。

この要覧は、市庁舎竣工と市制15周年を記念して発刊しましたが、本誌により常滑市を正しくご理解いただき、さらに今後の進展にお心をお寄せいただければ幸甚に存じます。



沿 革

本市は昭和29年4月1日、常滑町、鬼崎町、西浦町、大野町および三和村の4町1村が合併して誕生した。

その後、南部に隣接した小鈴谷町のうち、大谷、小鈴谷、広目および坂井の4地区が昭和32年3月31日に市域に加わり、現在の常滑市となった。

以前の歴史をさぐると、往古、漁労の民が海岸沿いにあるいは海を渡って当地に住みついたと想像される。

和名抄には知多郡贅代郷の地と記されており、永正4年（1507年）の宗長宇津山記には「伊勢の国多気より大湊に出で、尾張の国知多郡常滑という津に渡る」とある。戦国時代を経て江戸時代には尾張藩の治下であり、維新後は名古屋県、額田県そして愛知県に属した。

本市の地名「常滑」については、万葉集にも用例があり、学説では「常」は床の義にとり、「滑」は滑（なめらか）の義にとるのが妥当であるとされている。古来当地は岩土盤の露出が多く、その性質はなめらかになっており、この岩土盤全体をも「とこなめ」と呼ぶ習俗を生んだものとされている。

躍進する常滑

市制施行後は、新市として都市的形態を整えるため社会基盤整備のための行政需要がいちじるしく増大し、加えて財政自主再建の適用、伊勢湾台風をはじめ相つぐ大災害など悪条件が重なり、行政的にも財政的にもきびしい受難の時期がつづいた。

しかし間もなく競艇事業が好転し、また、災害の復旧事業もきわめて順調に進捗したので、その後は学校、保育園、公民活動施設、道路橋梁、環境衛生、産業の近代化など生産と生活環境の整備に飛躍を遂げることができた。懸案であった市庁舎はつつがなく完工し、引きつづき駅前広場整備、東部丘陵地帯総合開発の2大事業をはじめ地域の開発、住民福祉の安定と向上のためのいくつかのプロジェクトが具体化されている。

中部圏の要である中京広域圏の一核として、また、豊かな開発可能性を有する伊勢湾に臨む新興都市として、常滑市の担う役割りはまことに大きくその前途は洋々たるものがある。

●自然

本市は愛知県の知多半島、西海岸中央部にあって、東経 136度50分、北緯34度54分に位置し、東西 6.1 km、南北15km、面積 49.45km²、西は伊勢湾に面して平たん地が続き第4期沖積層であり、東は半島の背骨ともみえる第3期層の丘陵地帯で半田市、武豊町との境をなしている。海岸沿いに市街地を形成し、伊勢湾は漁業に、平たん地は商工業に、そして丘陵部は農畜産にとめぐまれた地理的条件にある。中部圏の核心名古屋中心部へは電車で45分の距離にある。

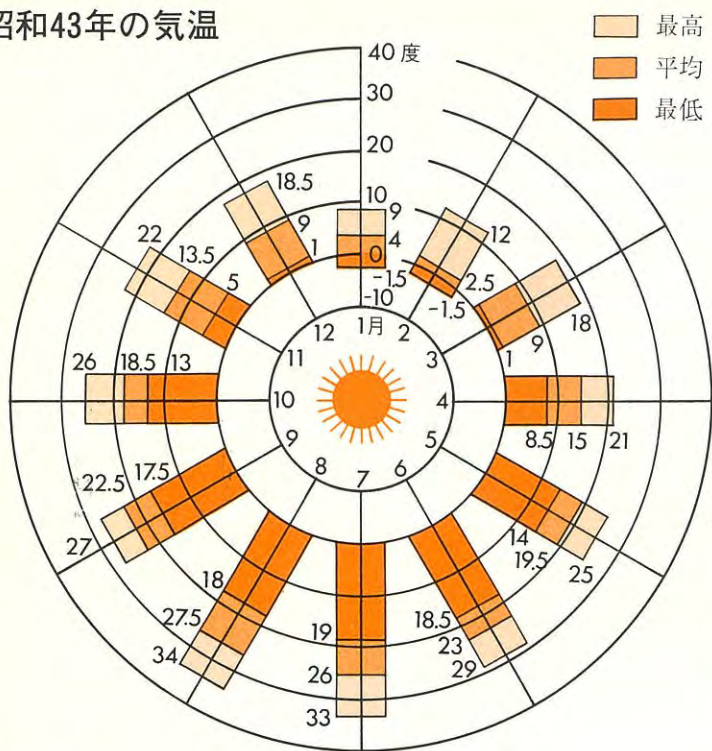


土地

総面積
49.45km²

田 1,349Ha	畑 770Ha	宅地 496Ha	山林 1,079Ha	原野 116Ha	池沼 154Ha	その他 981Ha

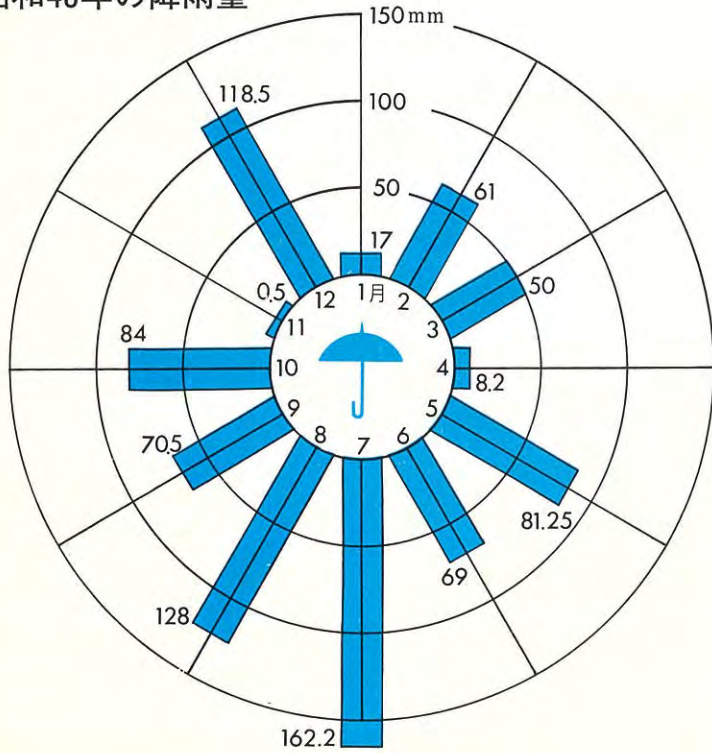
昭和43年の気温



気 象

知多半島は伊勢湾、三河湾を両分し、三方を海に囲まれた形態である。この海流により夏は涼しく、冬は暖かいめぐまれた気象下にある。季節風は春夏は東南から、秋冬は北西から吹き、雨期以外は降雨少なく晴天が多い。また冬期の降雪はまれにしかない。

昭和43年の降雨量



人口

人口の推移

各年4月1日現在

区分	年度	29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年	42年	43年
人口	男	19,999	20,135	20,262	22,526	22,520	22,715	23,182	23,850	24,335	24,430	24,834	25,140	25,412	25,614	25,602
	女	22,980	23,078	23,451	27,274	27,071	26,846	27,440	28,145	27,387	27,468	27,557	27,944	28,119	28,226	28,273
	計	42,979	43,213	43,713	49,800	49,591	49,561	50,622	51,995	51,722	51,898	52,391	53,084	53,531	53,840	53,875
世帯数		8,482	8,509	8,534	9,469	9,573	9,696	9,905	10,255	10,421	10,703	11,030	11,340	11,577	11,924	12,134

男女比

男・1

女・1.1



1世帯当り

平均人数

4.4人

外国人登録数

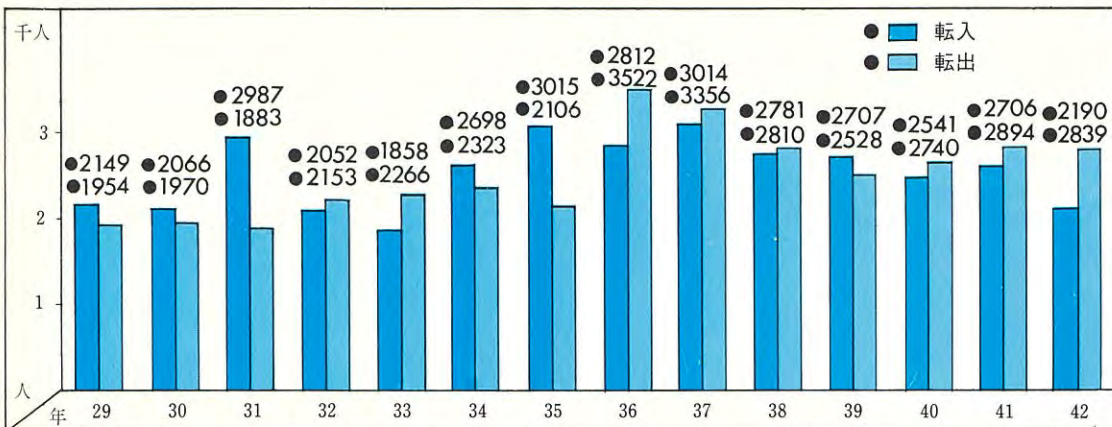
	朝鮮	韓国	アメリカ
男	60	55	4
女	39	51	2
計	99	106	6
世帯数	31	24	1

昭和29年4町1村による市制施行時の人口は42,979人、その後32年に小鈴谷町を合併49,800人となった。過去5か年の増加率を見ると自然増が1%、社会増が0.5%減となっており、緩慢な増加を示している。

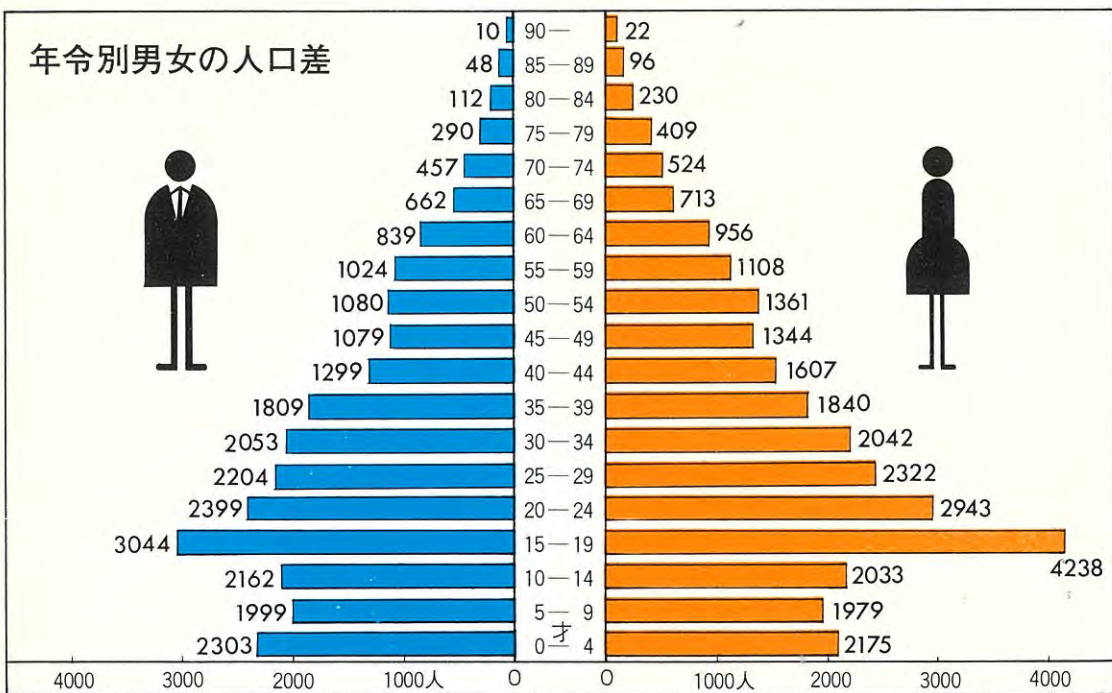


人口社会動態

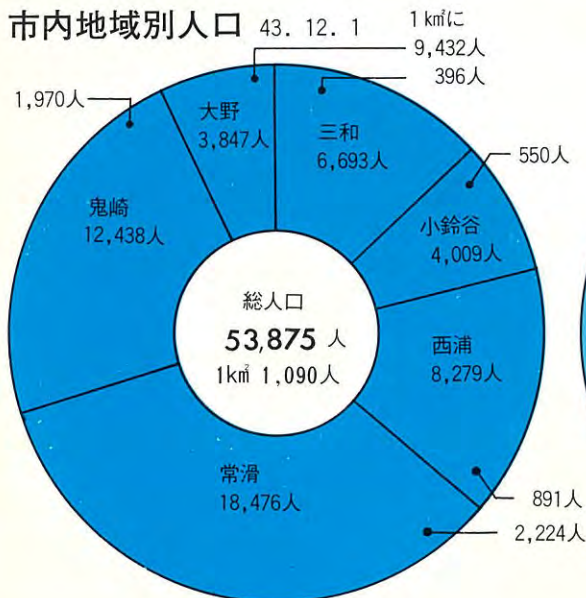
29～42年



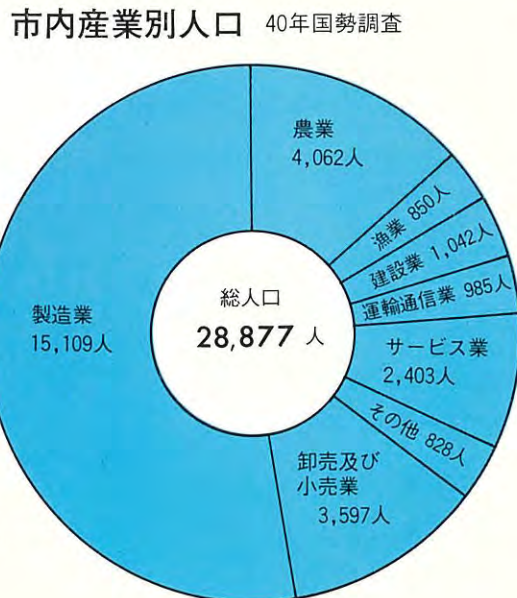
年齢別男女の人口差



市内地域別人口



市内産業別人口

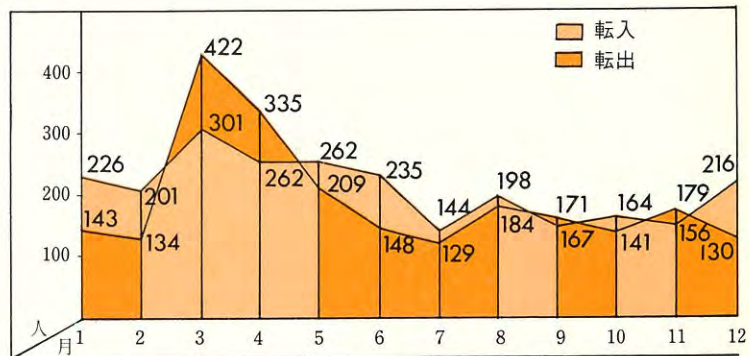


人口の動態

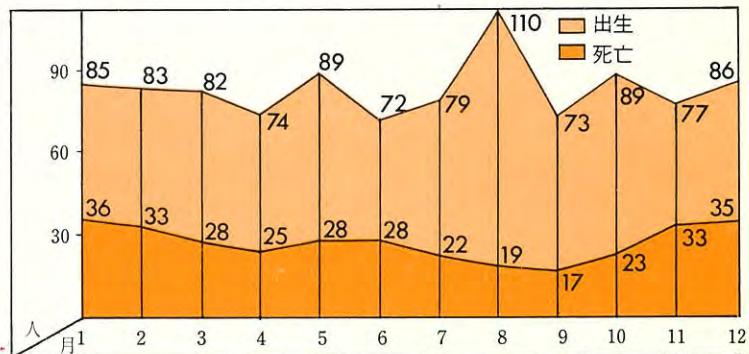
単位人

	自然増			社会増			その他		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	婚姻	離婚	死産
29年	710	344	366	2,149	1,954	195	351	32	52
30年	708	311	397	2,066	1,970	96	389	31	59
31年	677	328	349	2,987	1,883	1,104	421	24	37
32年	722	416	306	2,052	2,153	-101	421	32	46
33年	808	339	469	1,858	2,266	-408	431	19	37
34年	751	385	366	2,693	2,323	370	414	17	44
35年	852	388	464	3,015	2,106	909	471	32	56
36年	828	391	437	2,812	3,522	-710	512	28	86
37年	899	381	518	3,014	3,356	-342	463	23	111
38年	893	371	522	2,781	2,810	-29	517	22	99
39年	906	392	514	2,707	2,528	179	537	21	86
40年	973	327	646	2,541	2,740	-199	450	20	78
41年	830	333	497	2,706	2,894	-188	496	21	43
42年	1,019	335	684	2,190	2,839	-649	497	25	47

人口社会動態43年月別



人口自然動態43年月別



● 行政



久田 慶三



服部 正次



平野 昭三

歴 代 市 長		
氏 名	就 任 期 間	
伊 奈 長 三 郎	29. 4. 25～30. 3. 5	
滝 田 次 郎	30. 3. 27～34. 3. 26	
久 田 慶 三	34. 3. 27～在 任 中	

歴 代 助 役		
氏 名	就 任 期 間	
伊 奈 四 郎	29. 5. 7～32. 1. 21	
久 田 慶 三	30. 9. 28～34. 3. 5	
山 田 滝 一	34. 6. 29～38. 6. 28	
服 部 正 次	38. 10. 25～在 任 中	

歴 代 収 入 役		
氏 名	就 任 期 間	
山 田 滝 一	29. 5. 7～34. 6. 28	
平 野 昭 三	34. 6. 29～在 任 中	

市制施行15年を迎えた本市は、知多西地方第一の都市としてこの地方における行政、経済、学術および文化の中心をなしている。

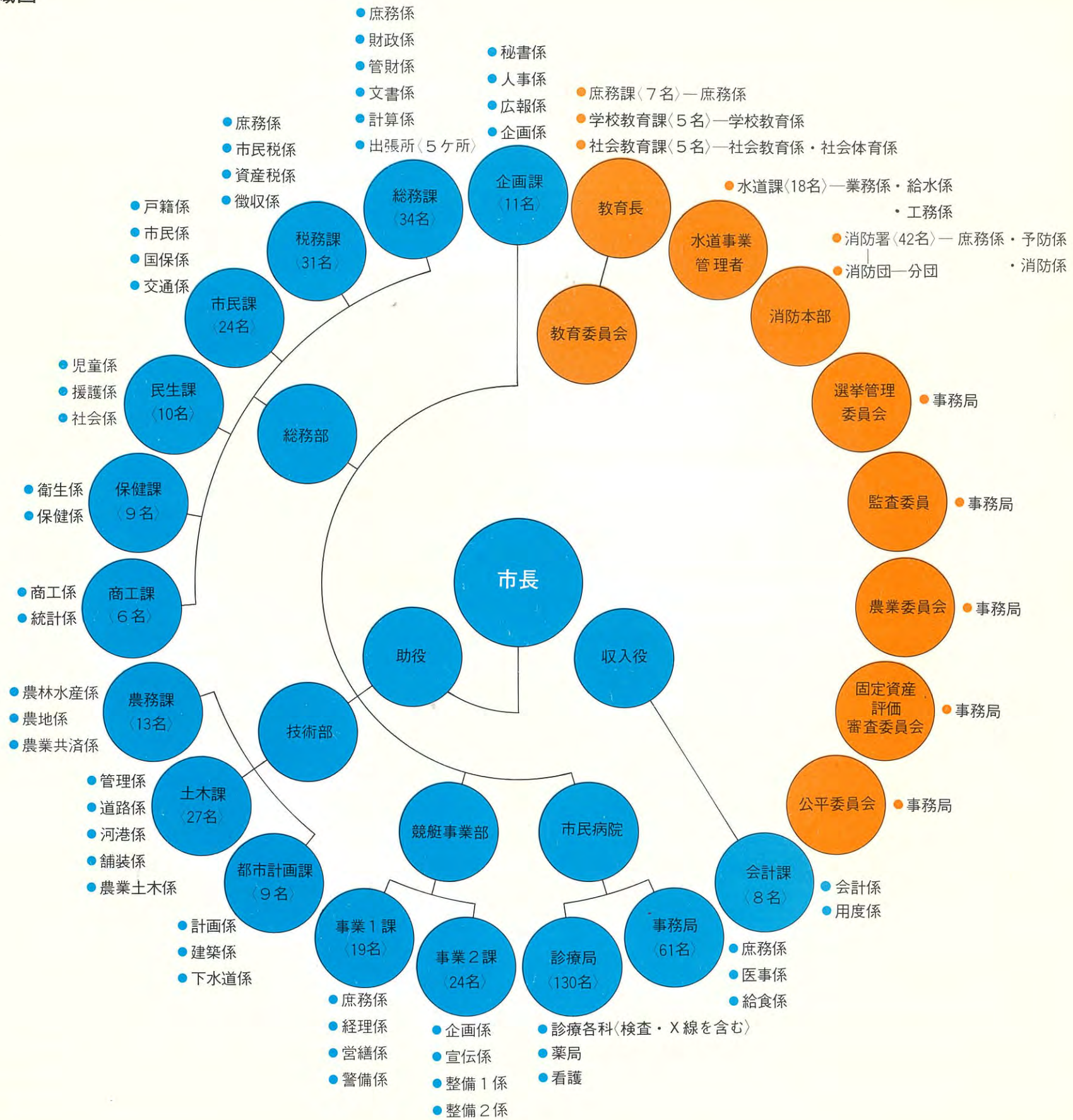
明るい市民サービスと言行一致の市政をモットーに、教育文化の振興、道路・港湾の整備拡充あるいは民生の安定また交通安全対策の推進等、住民の福祉向上のため充実した行政がなされている。

市制施行以来の懸案であった新市庁舎は、約5億円を投じて竣工し、市民サービスと言行一致の市政両輪のスタートがなされた。

庁舎は1階に市民窓口関係、2階に建設関係、3階に執行部総務関係、4階に議会会議室とそれぞれ配置されている。



行政組織図





議決機関

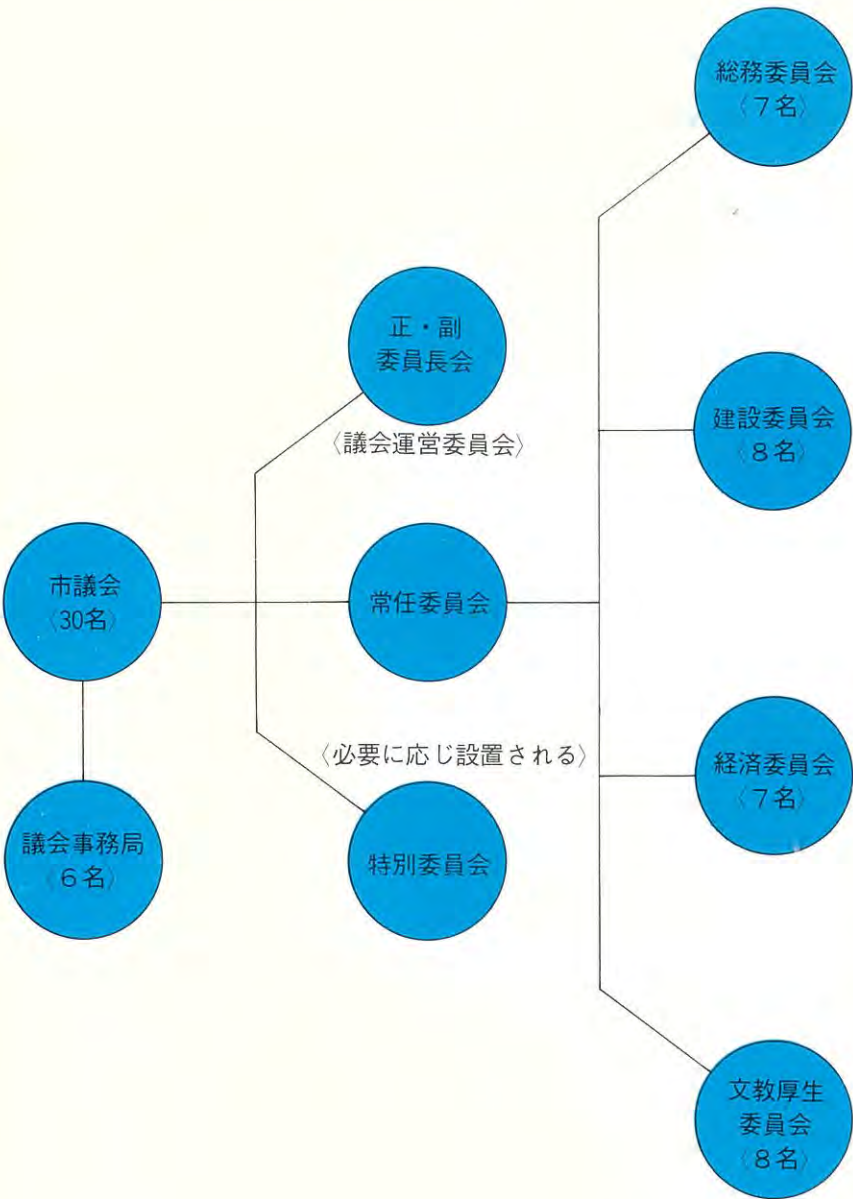
市の議決機関である市議会は、昭和37年12月定数減少条例を制定して議員定数30名と定め、少数精鋭をもって活発な審議を行っている。定例会は年4回、常任委員会は総務、建設、経済および文教厚生 of 4 委員会である。



歴	代	議	長
八	木	虎	雄
29.	4.	10~32.	4. 7
杉	江	達	太
32.	4.	8~33.	4. 3
井	上	健	一
33.	4.	4~34.	3. 31
稲	葉	民	治
34.	4.	2~36.	3. 31
久	田	金	蔵
36.	4.	1~38.	3. 31
沢	田	良	蔵
38.	5.	7~42.	4. 29
山	下	治	二
42.	5.	8~43.	5. 8
村	上	一	良
43.	5.	8~在	任 中

歴	代	副	議	長
水	上	義	介	
29.	4.	10~30.	3. 31	
杉	江	達	太	
30.	4.	5~32.	4. 7	
井	上	健	一	
32.	4.	8~33.	4. 3	
山	本	広	志	
33.	4.	4~34.	3. 31	
久	田	金	蔵	
34.	4.	2~36.	3. 31	
村	上	一	良	
36.	4.	1~38.	3. 31	
都	築	治	郎	兵衛
38.	5.	7~40.	4. 30	
伊	奈	嘉	蔵	
40.	5.	1~41.	10. 31	
山	下	治	二	
41.	11.	1~42.	4. 29	
沢	田	民	四	郎
42.	5.	8~43.	5. 8	
相	羽	友	弥	
43.	5.	8~在	任 中	

市議会の構成



議会活動状況

年	別	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
回数	定例	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時	6	6	7	4	2	3	4	4	3	2
	計	10	10	11	8	6	7	8	8	7	6
会期日数		15	14	18	15	48	53	31	38	30	27
出席率%		89.8	86.2	83.1	88.3	93	96.6	96.9	97.1	97.9	98.2
議事内容	条 例	24	20	28	21	23	51	32	29	23	23
	予算決議	34	43	45	51	40	41	41	39	51	64
	選挙	3	3	3	4	6	2	5	8	5	6
	その他	48	51	63	59	61	36	35	41	34	47
	計	109	117	139	135	130	130	113	117	117	140
審議	原案可決	106	114	136	127	123	127	108	108	95	112
	修正可決				3				1		
請願	採 択						4	4	6		
	不 採 択		1	1		3		1		1	3

市議会議員

44. 4. 1 ◎常任委員長 ○常任副委員長

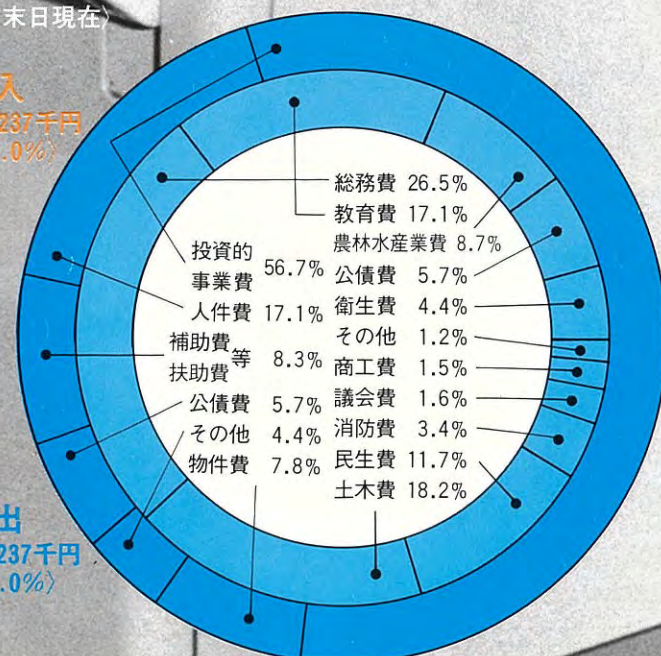
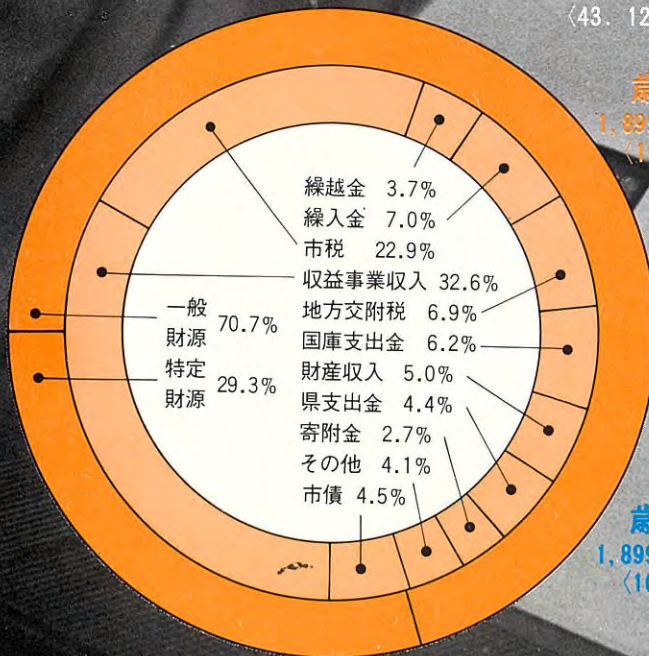
議席	氏 名	所属委員会	党 派 別	職 業	年 令	住 所
1	村 上 一 良	総	無 所 属	農 業	51	常滑市矢田字東根組13
2	相 羽 友 弥	経	〃	代 表 社 員	45	〃 字北屋敷128
3	加 藤 重 三	建	〃	旅 館 業	56	〃 大野町字洲岬4
4	後 藤 新 平	経	〃	衣料品小売業	61	〃 大野町字十王61
5	伊 藤 九 朗	◎総	〃	農 業	60	〃 榎戸字金荒子226
6	田 中 義 雄	総	〃	消費生活協同組合役員	56	〃 西阿野字唐崎159
7	山 本 弥 市	建	〃	農 業	53	〃 広目字前田面28
8	庭 瀬 健 太 郎	文	口 共 産 党	政 党 役 員	36	〃 字野間口33
9	相羽助右工門	建	無 所 属	製 麵 業	70	〃 金山字北郷24
10	角 野 和 昭	建	公 明 党	左 官 業	39	〃 字土取畑21
11	入 山 律 二	文	無 所 属	農 業	57	〃 桧原字平井畑37
12	関 一 雄	○経	〃	味噌醬油醸造業	33	〃 字北郷128
13	水 野 才 衛	経	〃	農 業	70	〃 蒲池字蒲池郷中103
14	沢 田 良 蔵	総	〃	陶管製造業	46	〃 字原松62
15	古 川 五 郎	文	〃	会 社 員	46	〃 熊野字下奥海道11
16	土 井 太 郎	建	〃	無 職	58	〃 西阿野字忠田43の3
17	宇 藤 繁 信	経	〃	会 社 員	67	〃 字市場40
18	関 豊 輔	建	〃	代 表 社 員	44	〃 字中郷93の15
19	山 下 治 二	文	〃	農 業	54	〃 西之口字郷中109
20	沢 田 民 四 郎	総	〃	会 社 社 長	58	〃 樽水字新居95の2
21	竹 内 利 幸	○文	〃	農 業	48	〃 金山字平井106
22	盛 田 亮 一	○総	〃	亜炭販売業	64	〃 大谷字浜条125
23	伊 藤 好 一	文	〃	会 社 社 長	58	〃 大野町字新町北53
24	夏 目 善 男	◎経	〃	農 業	51	〃 古場字坪根17の1
25	井 上 高 二	経	〃	会 社 員	48	〃 多屋山際38
26	古 川 三 十 郎	総	〃	無 職	61	〃 字平井口51の33
27	山 田 竹 士	◎文	〃	会 社 社 長	46	〃 字口田46の5
28	相武喜久四郎	○建	〃	農 業	60	〃 多屋字森西105の1
29	水 野 利 三	文	〃	会社常務取締役	45	〃 字鯉江新開9
30	山 本 国 夫	◎建	〃	会 社 社 長	48	〃 字前田東割47

● 財 政

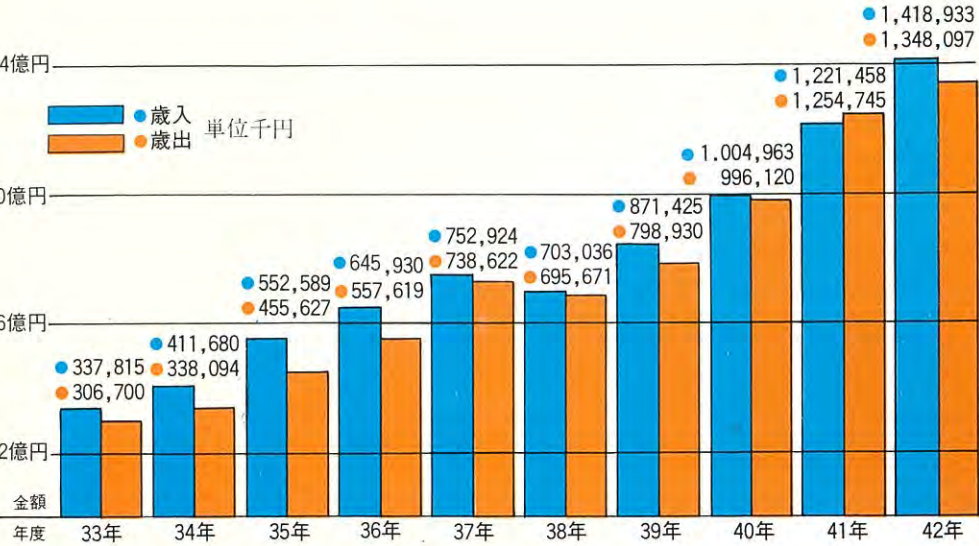
昨今の経済社会の急速なる進展に伴いその行政需要は増大の一途を加え質的量的にも多様高度化を要請し財政需要も急増の度を加えているが、財政構造の弾力性は低下しきびしい財政運営となっている。この様な社会情勢の中で、本市行政施策の重点として市民福祉の充実向上を主標として交通安全対策教育施設の充実、産業基盤の整備拡充等民生福祉の向上、社会資本の充実に行政の推進に努めているのである。

昭和43年度予算規模は一般会計、18億9923万円、特別会計を含む予算の総規模は73億4994万円となり、交通安全施設の整備を始め安全対策の強化、保育施設、教育施設の建設、市道、農道改良等の整備拡充に努めると共に多年の念願であった新市庁舎の完成と共に愈々本市都市基盤の確立へと住みよい常滑市を目途に行政の推進を図らんとしている。

昭和43年度一般会計予算の目的別及び性質別構成状況
〈43. 12. 末日現在〉



一般会計10年のうつりかわり



特別企業会計予算 (42年決算43年12月末予算比較)

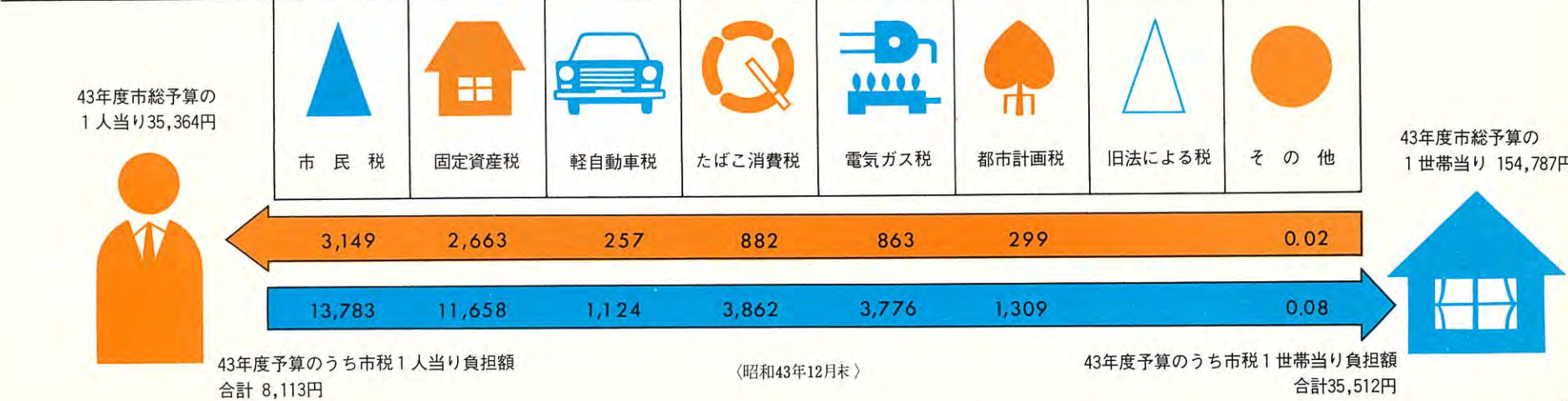
事業	区分	算		増 減 比 較
		昭 和 42 年 度	昭 和 43 年 度	
特 別	競 艇 事 業	5,541,820,000 ^円	6,362,415,000 ^円	820,595,000 ^円
	国民健康保険事業	183,937,000	218,545,000	34,608,000
	農 業 共 済 事 業	12,254,000	23,303,000	11,049,000
	陶芸研究所事業	7,036,000	8,984,000	1,948,000
	大 曾 開 発 事 業	32,010,000	34,607,000	2,597,000
企 業	市 民 病 院 事 業	176,686,000	204,477,000	27,791,000
	上 水 道 事 業	6,332,921,000	7,349,946,000	1,027,025,000

市税収入状況 (昭和40年42年比較) 各年 5 月 31 日

税目	40 年 度				42 年 度			
	予 算 額	調 定 額	収 入 額	調定額に対する収入率	予 算 額	調 定 額	収 入 額	調定額に対する収入率
市 民 税	159,635,000 ^円	169,067,981 ^円	160,889,004 ^円	95.1%	166,929,000 ^円	186,410,877 ^円	176,848,248 ^円	94.9%
固 定 資 産 税	132,414,000	140,432,231	133,128,737	94.7	145,974,000	159,902,541	152,384,242	95.3
軽自動車税	10,582,000	11,546,250	11,005,730	95.3	13,211,000	15,305,960	14,567,560	95.2
たばこ消費税	36,046,000	35,964,790	35,964,790	100.0	46,744,000	49,244,170	49,244,170	100.0
電 気 ガ ス 税	42,034,000	42,050,933	42,050,933	100.0	46,012,000	47,451,157	47,451,157	100.0
都市計画税	11,491,000	12,728,978	11,999,868	94.2	16,538,000	17,971,545	16,287,961	90.6
旧法による税	4,000	37,210	400	1.0	1,000	24,360	3,420	14.0
合 計	392,206,000	411,828,373	395,039,462	95.9	435,409,000	476,310,610	456,786,758	95.9

市税負担状況 (単位円)

昭和40年度	収入済額	160,889,004	133,128,737	11,005,730	35,964,790	42,050,933	11,999,868	400	計	395,039,462
	1世帯当り	14,187	11,739	970	3,171	3,708	1,058			34,833
	1人当り	3,030	2,507	207	677	792	226			7,439
昭和42年度	収入済額	176,848,248	152,384,242	14,567,562	49,244,170	47,451,157	16,287,961	3,420	計	456,786,758
	1世帯当り	14,831	12,780	1,222	4,130	3,979	1,366			38,308
	1人当り	3,285	2,830	271	915	881	302			8,484



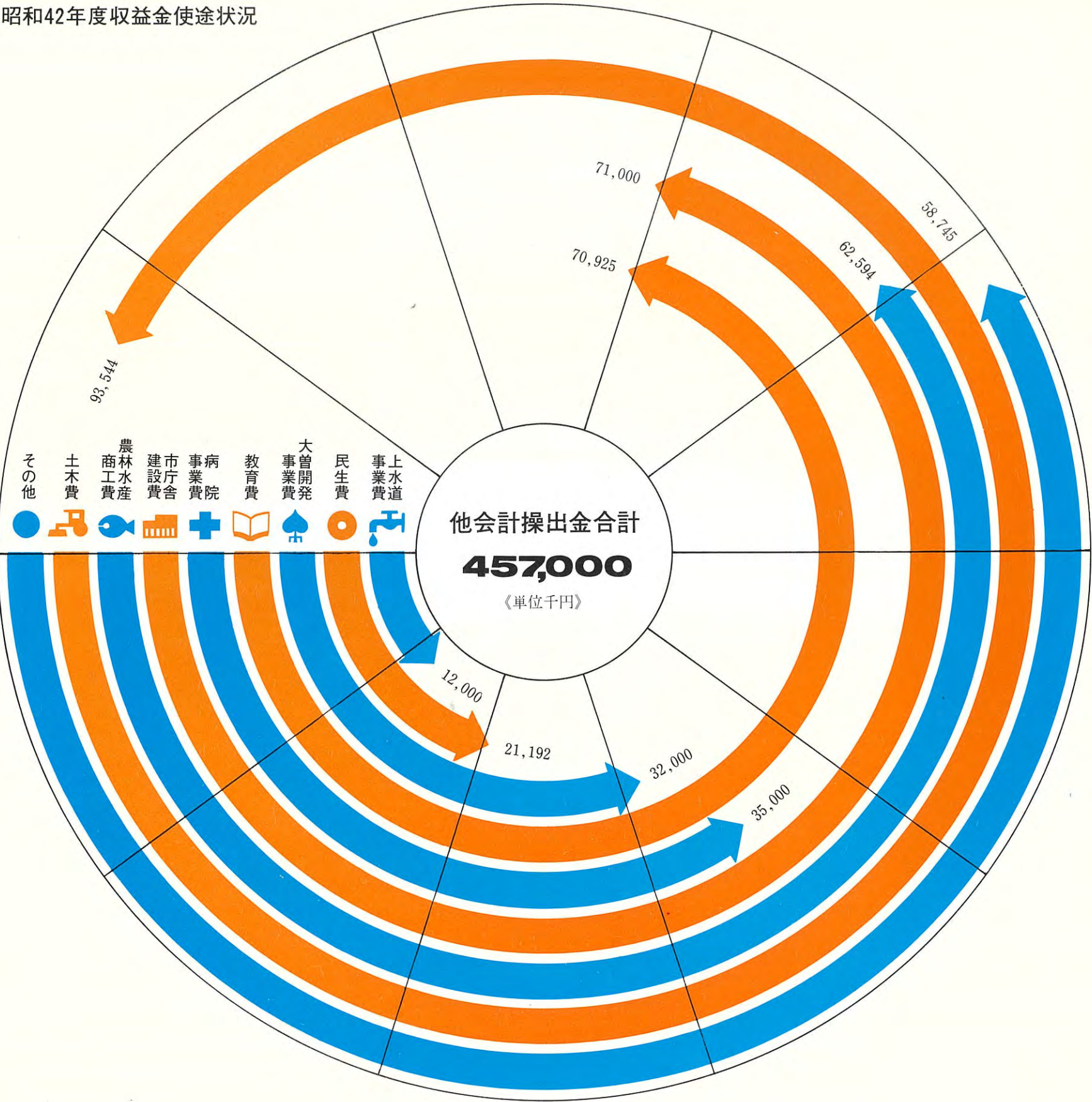
● 競艇事業

競艇事業開始当時には「ギャンブル廃社」の呼び声があったにもかかわらず、42年度は売上1日平均3,237万円となり、前年度に比し、73.4%増、入場者は前年度に比し39.7%増の3,882名を数え、その上昇率は全国第1位を示し、競艇事業の収益金は市財政に大きく寄与している。

常滑競艇が開始されたのは昭和28年3月合併前の常滑、鬼崎、西浦大野の旧4町の施行組合で認可を受け同年7月からレースを開始し29年4月市制施行と同時に市営となった。当時市財政窮乏のうえに昭和34年には伊勢湾台風であとかたもないという大被害を受けたがファンの要望に応じて直ちに復旧した。それから8年レース開始からは15年、収益金は学校の改築、市民体育会館の建設、本年4月完成の常滑市庁舎建設と市財政は活気づき本市発展の大きな資源となっている。42年度は45,700万円を市財政へ繰り入れまたレース場自体は鉄筋の近代建築に改造し健全なレクリエーションの場として、ファンの要望に応じている。

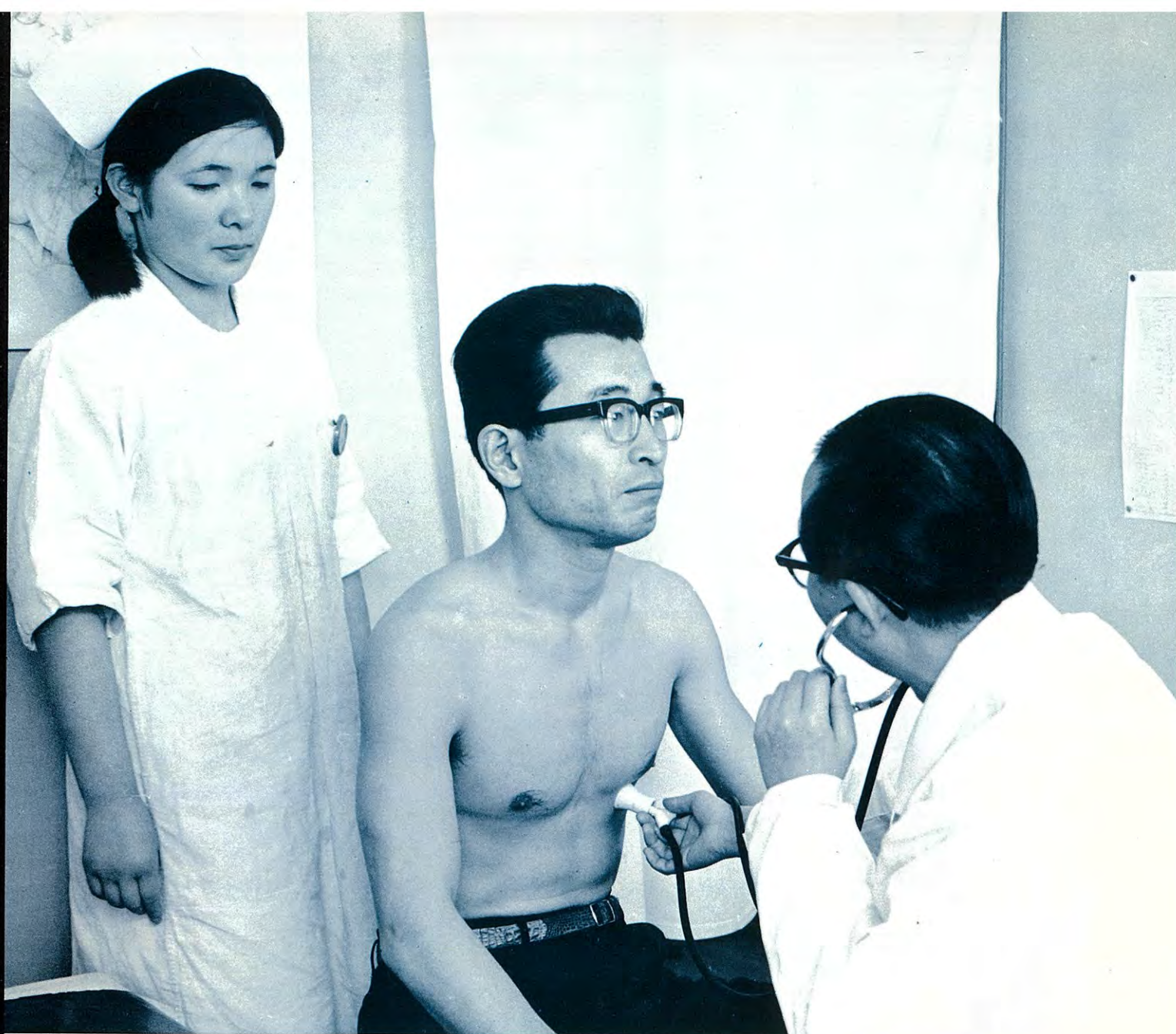


昭和42年度収益金使途状況



●国民健康 保険事業

国民健康保険は市民の医療保障として昭和32年9月から他市町にさきがけて開始され、年々給付内容の充実改善に努力してきた。これまで社会保険にくらべて低かった給付割合は38年の世帯主7割給付に続き、41年1月からは他市町に先んじて家族の7割給付を実施医療保障はいっそう強化された。



年度別国保保険給付の状況

区分 年度	療 養 給 付 費			療 養 費			助 産 費		葬 祭 費	
	件 数	費 用 額	保険者負担額	件 数	費 用 額	保険者負担額	件数	費用額	件数	費用額
32年度	21,751	16,496,591	8,018,319	508	1,292,916	484,939	154	154,000	137	137,000
33年度	42,560	38,950,317	18,799,678	1,449	3,245,648	1,622,824	270	270,000	186	246,000
34年度	52,422	56,668,276	27,484,158	1,355	2,305,952	1,152,976	260	260,000	178	348,000
35年度	55,306	65,646,711	31,994,572	1,236	2,401,067	1,200,227	267	267,000	226	452,000
36年度	55,718	85,887,196	42,514,695	1,329	1,760,291	874,505	253	253,000	181	362,000
37年度	58,549	98,112,474	48,982,337	1,361	1,438,852	716,497	302	553,000	220	439,000
38年度	61,971	117,336,942	62,211,612	1,292	1,905,276	992,888	267	532,000	197	394,000
39年度	68,440	147,904,620	83,218,343	1,298	1,950,041	1,105,112	241	481,000	159	318,000
40年度	68,150	173,230,240	97,978,626	1,421	2,005,476	1,103,232	302	604,000	191	382,000
41年度	70,940	203,268,107	121,535,647	1,523	2,139,296	1,216,370	215	430,000	208	416,000
42年度	79,350	242,899,510	168,041,955	1,679	2,225,519	1,555,799	335	670,000	169	338,000

年度別国保被保険者数

区分 年度	被 保 険 者		加 入 割 合	
	人 口	世 帯	人口%	世帯%
32年度	21,362	5,290	47.2	61.1
33年度	21,133	5,225	42.6	54.6
34年度	20,755	5,205	41.9	53.7
35年度	20,738	5,185	41.3	52.3
36年度	20,093	5,133	39.0	50.0
37年度	19,785	5,145	38.3	49.4
38年度	19,978	5,240	38.5	49.0
39年度	19,921	5,280	38.0	47.9
40年度	19,826	5,329	37.3	47.0
41年度	19,894	5,441	37.2	47.0
42年度	19,784	5,488	37.0	45.3

●市民病院 事業

市民の医療機関として昭和34年4月建設された市民病院は、全国医療機関のモデル建築として注目を集めている。この常滑市民病院は本市の中心部にあり当地方の医療の中心となっており、市民のみでなく、近隣市町民の利用にも供せられ、これらの増加する患者に充分に应ぜられるよう施設の拡充を計画、昭和43年度から継続事業として、病棟を始め診療、管理、など各部門にわたり増改築が行なわれる。



市民病院診療科利用状況・43年

区 分	内 科		外 科		小 児 科		皮膚泌尿器科		産 婦 人 科		耳鼻咽喉科		眼 科		計	
	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来
月 別	20,574	47,825	13,727	28,474	936	8,873	2,805	29,595	10,509	20,437	1,578	21,275	157	16,199	70,668	172,678
1日平均	56	158	38	94	3	29	8	98	29	68	4	70	1	54	193	473



市内医療施設

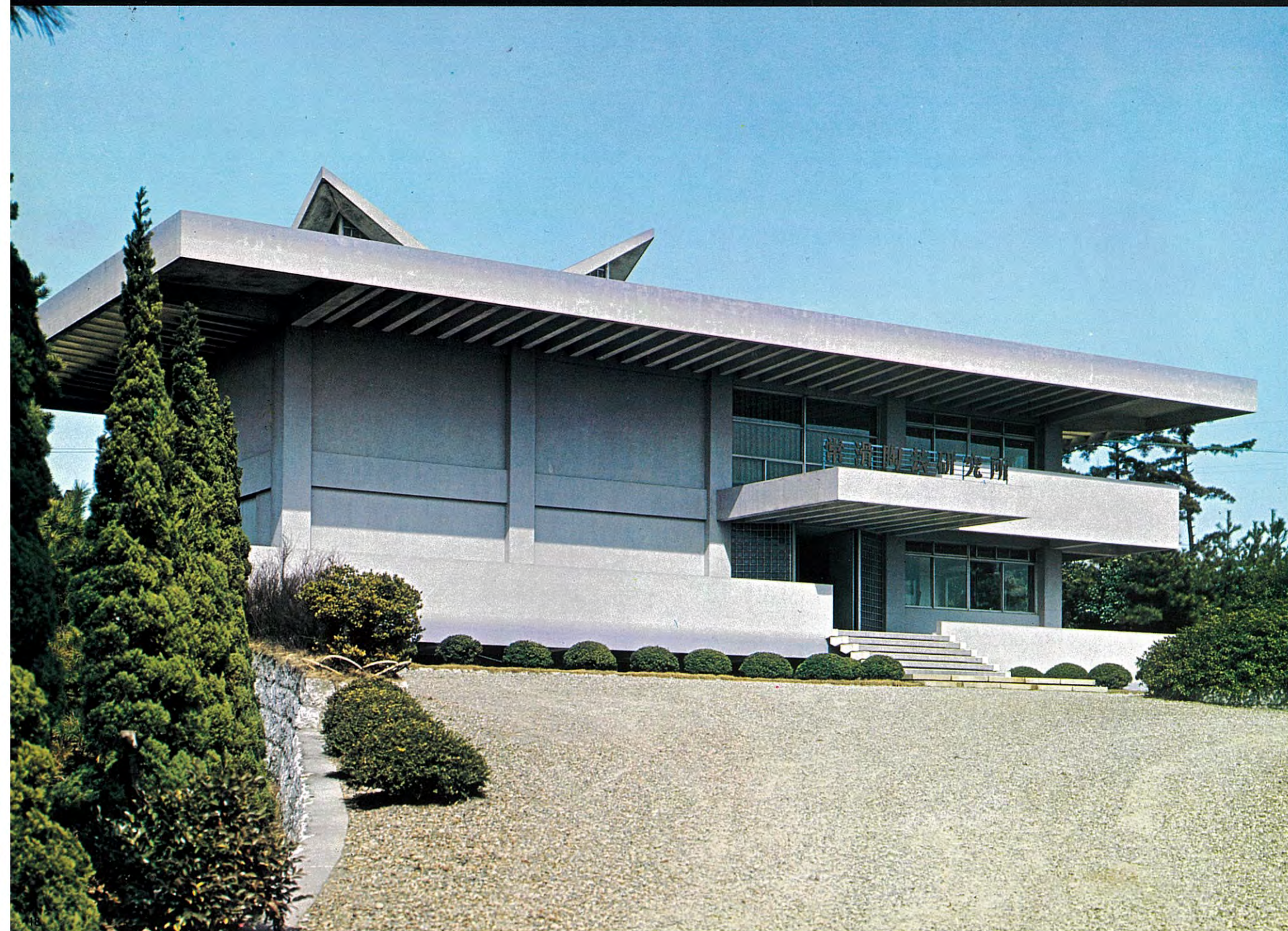
施 設 名	数
病 院	1
診 療 所 (医院)	28
歯 科 診 療 所	13
整骨、はり、あんま	49
助 産 婦	27
伝 染 病 舎	1

市内医療関係者

名 称	人 員
医 師	43
歯 科 医 師	18
薬 剤 師	31
獣 医 師	5
整 骨 医	4
は り・あんま	46

● 陶芸研究所 事業

小高い常石の丘の上、近代的なこの研究所の中で、日本6古窯の一つ「古常滑」の伝統を受け継ぐ陶芸家たちが日夜研究に製作に孜々として励んでいる。内外の見学者は年々増加している。



愛知県窯業技術センター

愛知県窯業技術センターは県内窯業の試験研究と技術指導のセンターです。昭和43年10月 2,995.86㎡ におよぶ新施設を建設発足し県下の窯業界特に中小企業に密接な問題や共通的な課題からいくつかの今日の問題、明日の研究課題を選定し専門分野において試験研究を進め県下中小企業の技術研究部門の共同施設の役割を果たしている。

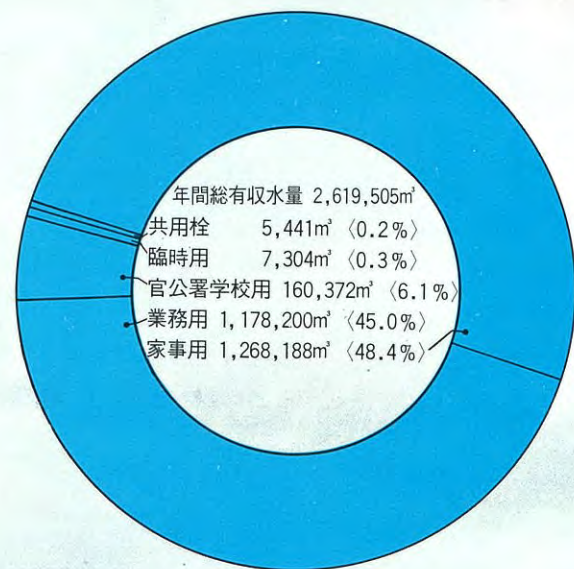
また当センターはだれでも気軽に各種の施設を利用することができます。試験、分析、鑑定、加工などの依頼に応じるとともに意匠図案および試作等をも致しております。



● 水道事業

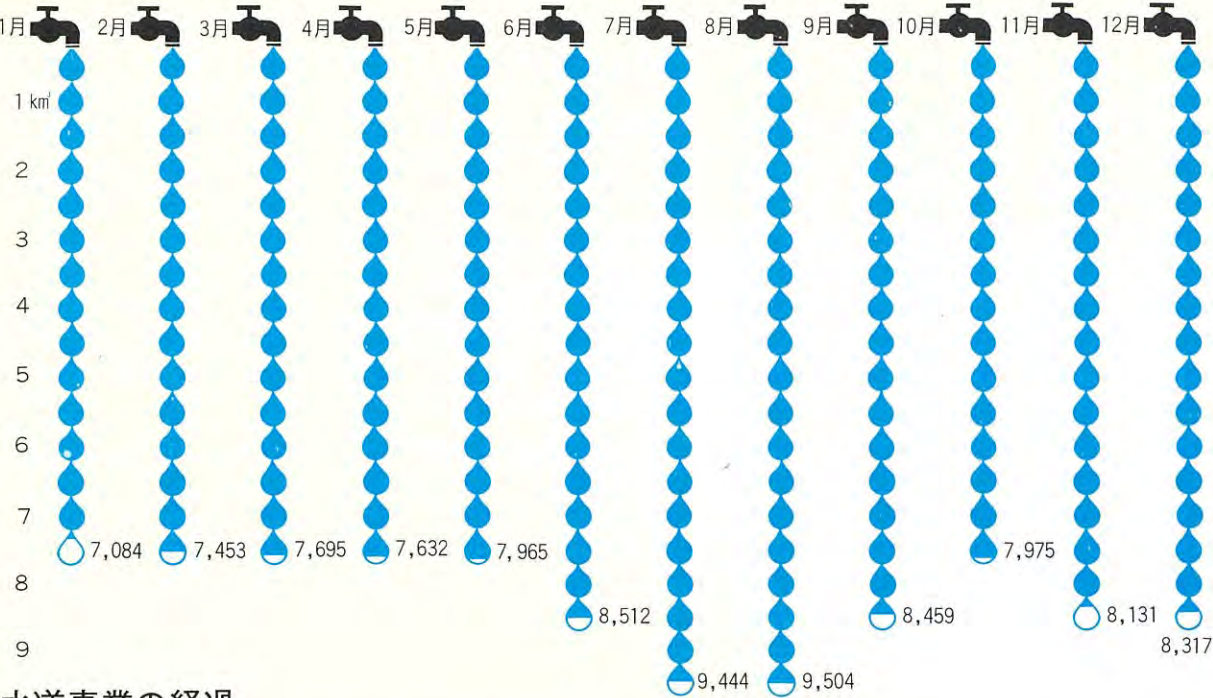
近代都市の必須条件であり、文化生活のバロメーターともいわれる上水道は、愛知用水上水道計画により、昭和32年12月厚生省の認可を受け配水管布設工事に着手し昭和37年2月工事完成、愛知県営久米、大谷両浄水場から供給され、全市域（検原地区を除く）に給水している。この完成により、従来の市営ならびに組合営の簡易水道はすべて整備統合され運営の一元化が実現した。

さらに第1期拡張事業は昭和40年1月に完成給水人口4,500人増を確保、第2期拡張事業は昭和50年を目標に給水人口19,500人増を見込み1人1日平均294ℓ、1日最大給水量、24,000m³の事業で昭和41年に着手され同45年度に完成予定であり、上水道の確保は充分に行なわれている。



愛知県久米浄水場

月別 1 日平均給水量 昭和43年



水道事業の経過

事業名	認可年月日	竣工年月	事業費	配水量		計画給水人口	摘要
				1人1日最大	1月最大		
創設	32. 12. 9	37. 2	78,800千円	250ℓ	8,250㎡	33,000人	統 合
第 1 期 拡張	38. 12. 28	40. 1	14,550	256	9,600	37,500	
第 2 期 拡張	40. 12. 23	46. 3	310,000	420	24,000	57,000	施行41～45

営業状況 給水人口 業務量

年度 項目	37	38	39	40	41	42	指数					
							37	38	39	40	41	42
市人口(12月)(人)	51,655	52,224	52,861	53,316	53,631	53,664	100	101	102	103	104	104
計画給水人口(人)	33,000	37,500	37,500	57,000	57,000	57,000	100	114	114	173	173	173
実給水人口(人)	31,365	33,085	35,891	38,573	39,392	40,426	100	106	114	123	126	129
普及率(%)	61	64	69	73	73	75						
年間総配水量(㎡)	1,511,624	1,695,263	1,999,540	2,237,948	2,357,705	2,747,741	100	112	132	148	156	182
年間総有収水量(㎡)	1,350,512	1,649,498	1,955,772	2,099,293	2,322,272	2,619,505	100	122	145	155	172	194
有収率(%)	89	97	98	94	98	95						
水道料金調定額(千円)	45,745	55,351	64,600	69,347	75,759	84,526	100	121	141	152	166	185

水道の現在と将来

(目標年次昭和50年)

年次 項目	昭和42年	昭和50年	指数	
			昭和42年	昭和50年
総人口(人)	53,664	67,000	100	125
給水人口(人)	40,426	57,000	100	141
普及率(%)	75	85		
1人1日平均給水量(ℓ)	186	294	100	158
1日平均給水量(㎡)	7,507	16,758	100	223
1人1日最大給水量(ℓ)	251	420	100	167
1日最大給水量(㎡)	10,013	24,000	100	240
年間総配水量(㎡)	2,747,741	6,116,670	100	223
年間総有収水量(㎡)	2,619,505	5,199,198	100	198

水道施設状況 配水管の延長

(昭和42年度)

口径 mm 管種	600	450	400	350	300	250	200	150	125	100	75	
鑄鉄管(㎡)	543	105	2	22	8		4	460				1,144
石綿セメント管(㎡)				826	10	356	2,897	3,236	6,743	17,224	40,385	71,677
白銅管(㎡)							15	109	140	280	674	1,218
塩化ビニール管(㎡)												12
計(㎡)	543	105	2	848	18	356	2,916	3,805	6,883	17,504	41,071	7,051
消火栓(か所)				4		1	7	22	40	110	222	406

● 産 業

工 業

市の中心部には大小の製陶工場がひしめいており、全国的に陶器の町として知られている。この常滑焼は遠く平安時代から良質の陶器の産地として伝統を誇り安政年間にはじまった朱泥（しゅでい）はそのさびた色のはだ合いと穏和な光が広く海外にまでもてはやされる当市独特の産物である。

明治以後、この朱泥に土管などの建築陶器が加わり、現在は衛生陶器・タイル・建築ブロック等をはじめとして装飾および芸術品あるいは玩具、日用生活品など、はば広く生産されている。とくに陶管はわが国最大の生産を誇っている。

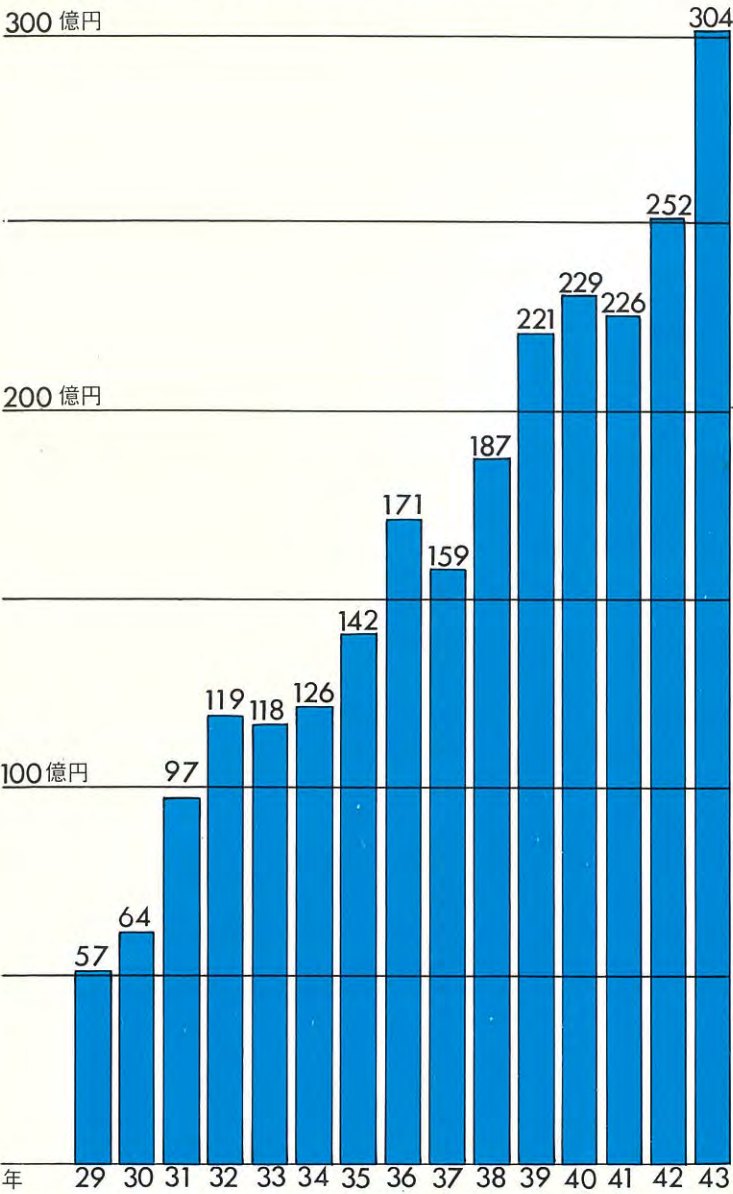
平安鎌倉の穴窯時代に制作されたダイナミックな古常滑は、今また優れた陶芸作家の輩出によりわが国陶芸界で高く評価されている。昭和36年設立開館された市立陶芸研究所は、伝統陶芸の保持、陶芸作家の育成等陶芸振興に大きな貢献をし、また常滑陶器館は窯業のPR、陶磁器製品の展示即売を行い隣接の陶磁器関係各協同組合と合わせてセンターとしての機能を果たしている。

また創設以来、窯業技術の指導研究機関として親しまれてきた愛知県陶磁器試験場は、その名も愛知県窯業技術センターとして市内三ツ池地内に約二億円を投じて近代的な施設が建設され各種試験及び研修など広く一般に解放され、一層の期待が持たれている。

このほか市の南、北部は知多木綿の産地として多くの織布工場があり、また知多の酒で知られる醸造業も活発である。



工業生産13年間のうつりかわり 〈加工修理料も含む〉

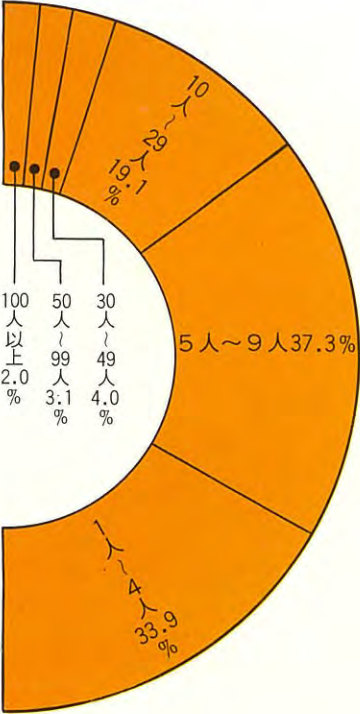


工業従業員規模別事業所数 43. 12. 31. 現在

種 別	1人 ～ 4人	5人 ～ 9人	10人 ～29人	30人 ～49人	50人 ～99人	100人 以上	合 計	割 合 %
陶 磁 器	168	181	80	14	16	11	470	65.5
紡 織	19	43	26	10	3	5	106	14.7
食 料 品	17	16	8	0	0	1	42	5.8
機 械 ・ 鍛 工 品	14	12	9	2	2	2	41	5.7
箱	4	3	7	2	0	0	16	2.2
製 材	3	6	2	0	0	0	11	1.5
建 具	8	2	2	0	0	0	12	1.7
印 刷	0	1	1	1	0	0	3	0.4
そ の 他	12	3	2	1	0	0	18	2.5
合 計	245	267	137	30	21	19	719	100.0
割 合 %	34.1	37.1	19.1	4.2	2.9	2.6	100.0	

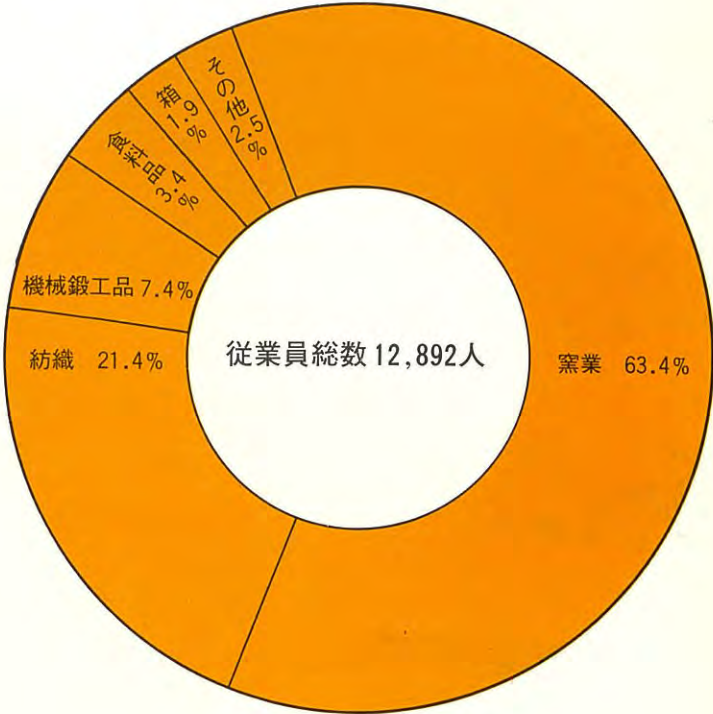
規模別事業所割合

43. 12. 31. 現在



業種別従業員割合

41. 12. 31. 現在



業種別生産状況

43. 12. 31. 現在

種 別	事 業 所 数	従業員数	生 産 額			加 工 費	出荷率
			出 荷 額	在 庫 額	計		
陶 磁 器	470	8,184人	1,482,793万円	50,107万円	1,532,900万円	17,189万円	51.7%
紡 織	106	2,761人	745,391万円	9,182万円	754,573万円	61,849万円	26.0%
食 料 品	42	432人	194,195万円	3,128万円	197,323万円	2,068万円	6.8%
機 械 ・ 鍛 工 品	41	955人	321,902万円	4,618万円	326,520万円	16,641万円	11.2%
箱	16	243人	66,023万円	112万円	66,135万円	0万円	2.3%
製 材	11	75人	14,968万円	0万円	14,968万円	2,530万円	0.5%
建 具	12	51人	9,448万円	0万円	9,448万円	135万円	0.3%
印 刷	3	76人	11,873万円	473万円	12,346万円	553万円	0.4%
そ の 他	18	115人	24,383万円	0万円	24,383万円	2,270万円	0.8%
合 計	719	12,892人	2,870,976万円	67,620万円	2,938,596万円	103,235万円	100.0%



陶磁器の種別生産状況

43. 12. 31. 現在



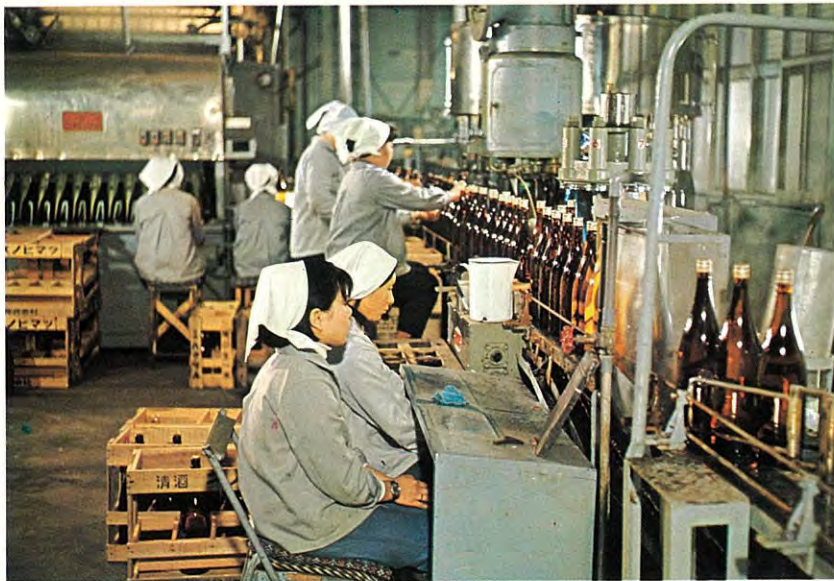
種 別	事業所数	従業員数	出 産 額			加工費	出荷率
			出荷額	在庫額	計		
			万円	万円	万円	万円	%
陶 管	97	767	142,653	2,641	145,294	417	9.6
ブロック流し浴槽	11	303	44,726	5,682	50,408	0	3.0
タイル・モザイク・クリンカー	28	3,399	660,194	29,858	690,052	2,148	44.5
衛生陶器	31	898	168,516	5,694	174,210	2,165	11.4
卓上用陶磁器	19	313	49,333	672	50,005	348	3.3
陶製玩具具	96	1,056	179,129	2,631	181,760	8,758	12.1
茶 器	42	173	17,832	0	17,832	8	1.2
植 鉢	89	673	93,063	1,002	94,065	628	6.3
厘鉢・石膏製品	25	238	53,670	306	53,976	426	3.6
粘土・釉薬・その他	32	364	73,677	1,621	75,298	2,291	5.0
合 計	470	8,184	1,482,793	50,107	1,532,900	17,189	100.0



織物種別生産状況

43年

種 別	事 業 所 数	従業員数	生 産 額			加 工 費	出荷率
			出 荷 額	在 庫 額	計		
紡 績	3	1,100	372,754	4,056	376,810	0	50.0
綿・スフ・ガーゼ	74	1,172	174,494	2,234	176,728	49,194	23.4
綿 麻 ロ ー プ	7	34	3,237	0	3,237	245	0.4
染色サイジング	4	22	4,445	0	4,445	2,530	0.6
シャツ・靴下・その他	18	433	190,461	2,892	193,353	9,880	25.6
計	106	2,761	745,391	9,182	754,573	61,849	100.0



食料品種別生産状況

43年

種 別	事 業 所 数	従業員数	生 産 額			加 工 費	出荷率
			出 荷 額	在 庫 額	計		
酒 ・ し ょ う 油	8	218	158,622	3,128	161,750	0	81.7
パ ン ・ 菓 子	15	107	16,341	0	16,341	2,068	8.4
トーフ・コンニャク・アゲ	9	37	3,692	0	3,692	0	1.9
そ の 他	10	69	15,540	0	15,540	0	8.0
計	42	432	194,195	3,128	197,323	2,068	100.0



箱種別生産状況

43年

種 別	事業業 所 数	従業員数	生 産 額			加 工 費	出荷率
			出 荷 額	在 庫 額	計		
段 ボ ー ル 箱	12	226	63,999	112	64,111	0	96.9
木 箱	4	17	2,024	0	2,024	0	3.1
計	16	243	66,023	112	66,135	0	100.0

● 商業

近年商店街単位で組織的な経営へと活動をはめている一部商店街では、名実ともに近代的な商店街づくりにとすでに資金の積立をはじめなど、近代経営に組みかえるべく合理的な商店経営の研究指導がなされている。

このほか関係業者の協同化も進んでおり、これ等をあわせ目下構想が練られている常滑駅前広場整備が実施されれば近代的商店街が実現するものと期待されている。別に業態から見ると、市主産業の関係からやはり陶磁器販売が全体の31%で他を引き離している。陶磁器販売業者が協力開催する常滑焼見本市は全国の業者が集まりにぎわいを見せる。





銀座通り商店街



本町商店街



大野商店街

主な業種別販売額推移

(各年商業統計)

業種	年	37	39	41	43
		万円	万円	万円	万円
陶磁器		147,932	258,036	297,333	393,113
酒調味料		62,701	66,033	90,561	100,051
呉服		121,927	72,121	89,456	101,934
石油石炭		132,551	133,013	89,582	119,273
菓子・パン		30,571	36,229	44,460	52,914
野菜		38,162	40,796	35,896	66,768

市内金融機関数

金融機関名	本店・支店・支所数	金融機関名	本店・支店・支所数
東海銀行	2	大野町信用組合	1
知多信用金庫	1	西浦農協	4
太道相互銀行	1	久米農協	1
常滑商工信用組合	4	前山農協	1
常滑農協	10	矢田農協	1
鬼崎農協	4	郵便局	8

商業種類別調

昭和43年7月1日現在商業統計

業種別	区分	商店数	従業者数	販売額	在庫額
				万円	万円
陶磁器		41	431	393,113	28,914
菓子・パン		173	346	52,914	3,092
野菜果物		82	224	66,768	3,359
鮮魚		17	63	14,163	453
肉		21	59	17,236	394
酒・調味料		59	169	100,051	6,079
米		22	60	58,774	1,998
その他食料品		16	41	4,762	450
飲食店		103	293	27,069	
呉服服地		104	391	101,934	20,158
履物		20	41	7,232	1,360
自動車・自転車		34	95	37,175	3,635
電気器具		36	118	37,924	7,175
機械器具		10	32	16,320	1,217
洋品雑貨		11	16	2,546	643
医薬品・化粧品		50	106	29,534	5,808
石油・石炭		34	182	119,273	9,293
金物・荒物		24	80	18,784	3,310
文房具		22	141	22,029	3,181
時計・カメラ		20	42	5,324	2,376
タパコ		30	49	11,076	915
家具・建具		40	117	20,922	3,463
その他		91	291	121,330	12,005
合計		1,060	3,387	1,286,253	119,278

農業

市内東部の丘陵地は農地として利用されている。昭和36年通水した愛知用水は、これまで溜池、小河川にたよった当地の農業を一変させた。台風など災害時をずらし、雨期を待たず作付けできるなどから矢田、前山地区の農業構造改善事業に見られるように機械化等農業経営近代化施設を導入して省力栽培が行なわれている。しかしながら耕地面積は通水により造成されたが一方、工場、住宅への農地転用により耕地面積は増加していない現状である。全国的な傾向といえる農業従事者の減少は、本市においても同様であるが、農家数は現状を維持、兼業農家は依然兼業が行なわれ自主農家は米作を主体に、家畜、養鶏、園芸のうち一つを加えて経営規模を拡大し、施設の近代化と農業労働力の合理化を進めると共にこれら農産物、とくに生鮮食料の販売流通機構の整備統合に努めて農業所得の向上を計っている。農業生産額は別表のごとく、畜産が第1位、米産が第2位、次に野菜、果物の順となっている。これらのうち果物は、みかん、であり、花卉は名古屋市場に向けられている。市合併発足に伴い推進されていた農業協同組合の合併は6組合となったが、農家へのサービスと営農の向上を期して合併推進協議会が組織されている。



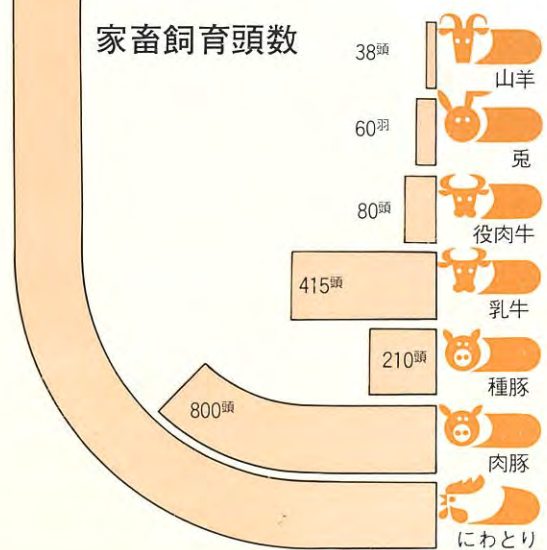
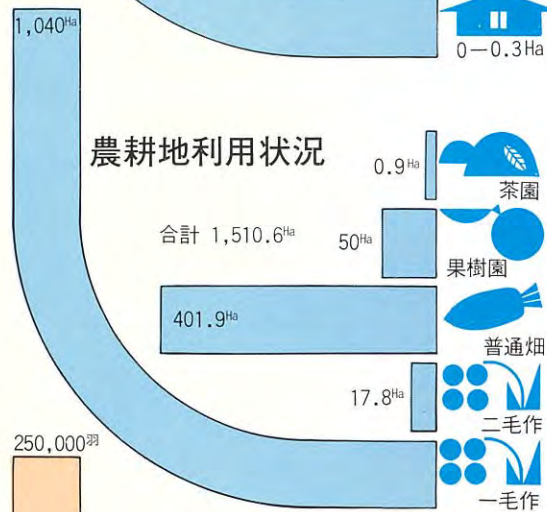
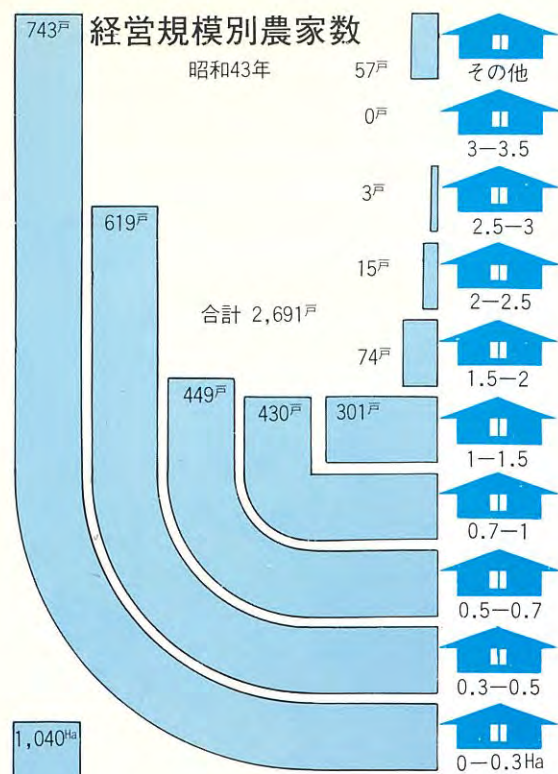
愛知用水

昭和36年10月に通水した愛知用水は、本市の東部を幹線水路が縦断し当地方の水源となって干害のない豊かな土地へと一大改革をもたらした。本市を通るこの幹線水路からは27本の支線によって農業用水が導入され、田約 994Ha、畑約 238Haが受益地となっている。さらに上下水道の大きな水源としてその価値は大きい。

市内農業協同組合の概況

43. 12. 1

項目 組合名	組合所在地	支所数	正組合員戸数	組合員数			役員数			職員数		自己資本	固定資産		貯金総額	共済事業契約高
				正	準	計	理事	内常勤	監事	総数	内女子		固定資産	外部出資		
矢田	矢田字西根組22	—	332	415	66	481	7	1	3	15	6	22,542	34,723	6,343	437,279	59,870
久米	久米字東郷24の1	—	211	218	70	288	7		3	7	2	14,455	12,872	4,778	305,273	41,000
前山	金山字平井129	—	254	260	72	332	7	1	2	8	3	14,286	16,269	4,764	250,156	43,415
鬼崎	榎戸字浜田71	3	673	673	1,023	1,696	13		4	32	16	67,410	83,690	14,410	1,311,160	160,960
常滑市	字南屋敷72	9	1,145	1,345	3,840	5,185	20	2	4	105	44	199,183	235,319	39,758	5,901,560	513,736
西浦	熊野字中ノオミ29の3	3	432	437	448	885	11	1	3	19	9	18,943	20,761	9,430	798,533	106,253
計		15	3,047	3,348	5,519	8,867	65	5	19	186	80	336,819	403,634	79,483	9,003,961	925,234



農業生産額

種 別	生産規模	昭和42年度	
		生産量	生産額
米	1,042 ^{ha}	3,750 ^t	477,000 ^{千円}
麦 類	114	279	15,345
い も 類	183	2,320	25,520
豆 類	13	64	2,170
野 菜 類	183	4,575	128,100
果 物 類	67	1,200	84,000
花 卉 類	34,900 ^{m²}		52,350
畜 産 物			596,750
計			1,381,235

専業別農家数

	専 業	第 1 種 専 業	第 2 種 専 業	計
35 年	620 ^戸	877	1,547	3,044
40 年	326	729	1,636	2,691

● 水産業

本市の漁業は伊勢湾が対象で、長い海岸線に沿って北から大野、鬼崎（蒲池・榎戸）苅屋の漁港と常滑港を有し、沖合の各所に人工築磯を設け、伊勢湾内有数の漁業地である。全国のモデルケースとなっている樽水海岸のコンクリートパイル防波柵、鬼崎漁港の湛水畜養場は有名であり、近年はとくに「のり」の養殖が盛んである。



のりそだ

漁業別協同組合別水揚高

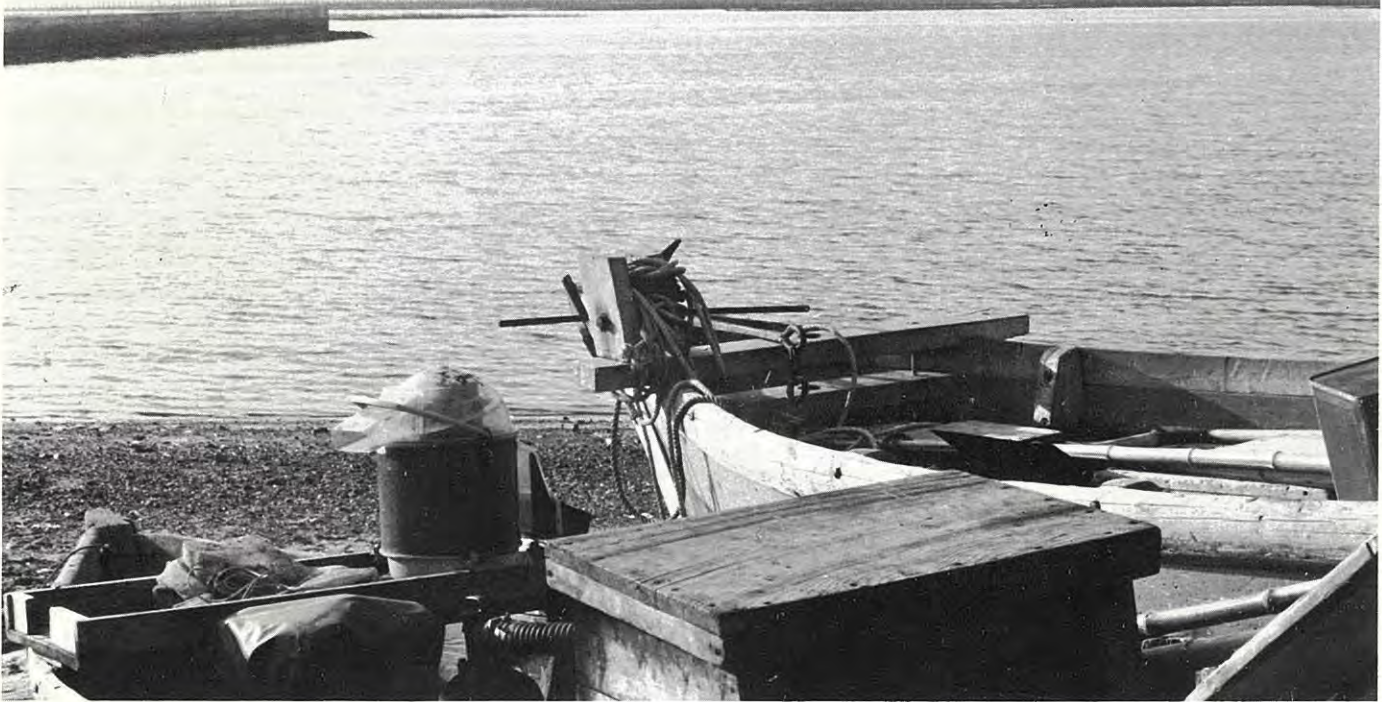
昭和43年度

組合別		種別	魚 類	貝 類	の り	計
常 滑	数量	kg	313,922	6,160	18,779	
	金額		64,018	951	376,440	441,409
鬼 崎	数量	kg	391,200	113,800	18,863	
	金額		68,392	17,608	347,283	460,283
大 野	数量	kg	7,000	6,000	3,073	
	金額		910	901	61,493	63,304
小 鈴 谷	数量	kg			30,539	
	金額				613,466	613,466
合 計	数量	kg	712,122	125,960	71,254	
	金額		133,320	19,460	1,425,682	1,578,462



鬼崎漁港

鬼崎漁港は市内北部の漁業基地であり新鮮な魚市場として活況を呈している。漁港にある畜養場は主に「エビ」「うなぎ」が養殖され、養殖漁業のモデルケースとして注目されている。



苅屋漁港

市内南部苅屋漁港は昭和39年から7か年計画1億9,500万円をもって漁港築造中で昭和46年に完成が予定されている。

水産業経営体数

43. 11. 1 現在

	経営 体数	漁 船				最盛期の従事者数			漁 獲 金 額 万円
		無動力船 (隻数)	船外機付船 (隻数)	動 力 船 隻 数	ト ン 数	総 数	家 族	雇 用 者	
総 数	585 ¹⁾	138	312	415	670	1,181	1,003	178	143,939
漁 船 非 使用	133					135	134	1	8,517
漁 船 無動力船のみ	1	1				3	3		40
漁 船 動力船使用	1トン未満	9	5	5	3	12	12		354
	1～3	17	2	19	23	23	20	3	736
	3～5	3	2	6	9	13	9	4	440
のり 漁船非使用	3					7	5	2	300
養 殖 漁船使用	419	135	305	385	635	988	820	168	133,552

海上作業従事者

43. 11. 1 現在

	家族・雇 用 者 別 数			性 別 ・ 年 令 別 従 事 者 数				雇 用 者 の 有 無	
	総 数	家 族	雇 用 者	男				女	雇 用 者 の い ない も の
				29才以下	30～49	50～59	60才以上		
総 数	886 ^人	828 ^人	58 ^人	150 ^人	347 ^人	94 ^人	82 ^人	213 ^人	546 ^人
漁 船 非 使用									133
漁 船 無動力船のみ									1
漁 船 動力船使用	1トン未満	7	7	1	1	2	2	1	9
	1～3	20	18	2	9	1	8		16
	3～5	13	9	4	3	2	8		2
のり 漁船非使用	6	5	1	1	2	1		2	2
養 殖 漁船使用	840	789	51	146	332	88	64	210	383

●土木建築

明るく住みよい常滑市を……

本市の都市計画は、市制施行前の昭和27年7月1日常滑、西浦および鬼崎の三町、人口3万人を対象区域として制定されたが、その後29年市制を施行、更に広域の都市計画が樹立された。このうち都市計画街路は昭和31年8月11日認可決定されたが以後流動する地域社会の変化に対応し、市を縦断する国道のバイパス線の決定など部分変更を加え、現在山手線ほか16路線総延長47,810mが計画されている。これらの路線のうち、常西線(2.2.3)は昭和40年度から5か年計画事業として着工され、また大野久米線(2.3.4)、瀬木線(2.3.8)は昭和42年度に着工される等この都市計画にもとづく街路事業は計画的に着々と施行されている。また土地利用計画にもとづく用途地域の指定を受け、さらに広域計画の必要性から愛知県新地方計画にもとづく知多広域開発を基盤とした総合的な計画を推進している。



都市計画街路明細

街路番号			街路名称	巾 員	延 長
等級	類別	番号			
2	1	1	山 手 線	20 ^m	6,670 ^m
2	1	2	常 半 線	20	2,350
				16	1,410
			計		3,760
2	1	3	北 条 線	20	650
				22	220
			計		870
2	2	1	南 北 線	16	4,640
				18	1,580
				12	1,930
			計		8,150
2	2	2	鬼 崎 港 線	16	950
				20~23	350
			計		1,300
2	3	1	海 岸 線	12	3,710
				16	2,430
			計		6,140
2	3	2	常 東 線	12	2,380
2	3	3	常 西 線	12	1,930
2	3	4	大野久米線	12	3,580
				16	150
				23	190
			計		3,920
2	3	5	青 海 山 線	12	370
2	3	6	鬼崎三和線	12	3,780
2	3	7	浜 田 線	12	1,300
2	3	8	瀬 木 線	12	1,170
2	3	9	樽 水 線	12	790
2	3	10	桧 原 線	12	2,880
1	小	1	中 央 線	8	2,400

常滑都市計画街路網図



土地造成開発

知多半島海岸部は風波による浸蝕と地盤の沈下により、土地が失なわれていたが、これらの失地回復に海岸の埋立造成事業が行なわれ、すでに鯉江新開地先海面182,044㎡、常滑港北側の入江48,118㎡、保示樽水地先海面 176,746㎡が完成した。さらに土地開発は丘陵部の大曾地区約10万㎡の土地が平坦化され、準工業地として開発されその南側には17万㎡を対象に総合グラウンド、公園の建設が計画され、昭和43年度より一部着工されている。



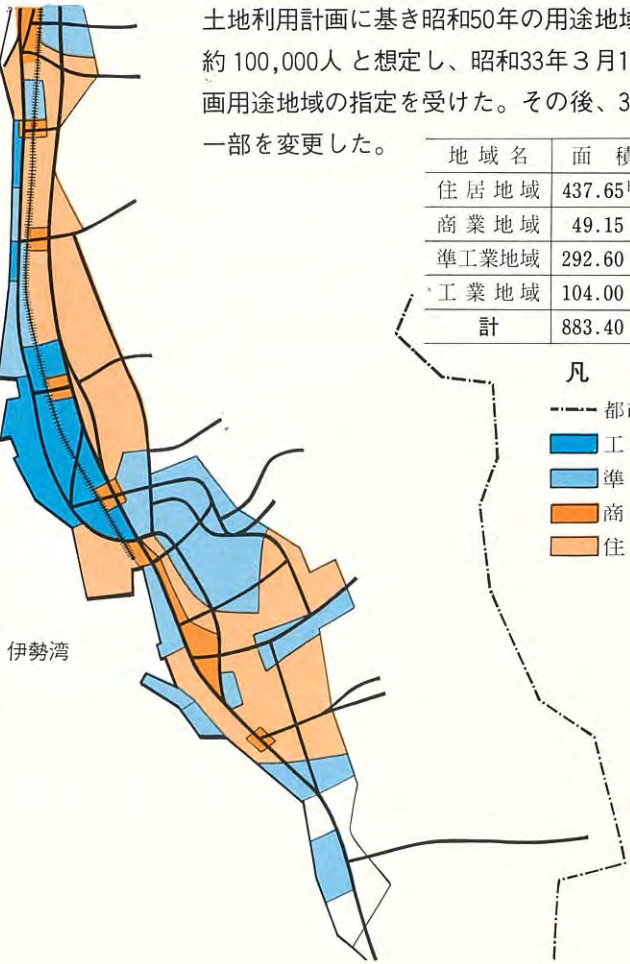
用途地域

本市将来の都市構成の健全な発展を期するため、土地利用計画に基づき昭和50年の用途地域内人口を約 100,000人と想定し、昭和33年 3月14日都市計画用途地域の指定を受けた。その後、39年10月末一部を変更した。

地域名	面積	比率
住居地域	437.65 ^{ha}	49.5%
商業地域	49.15	5.6
準工業地域	292.60	33.1
工業地域	104.00	11.8
計	883.40	

凡 例

- 都市計画区域
- 工業地域
- 準工業地域
- 商業地域
- 住居地域



道路 橋りょう

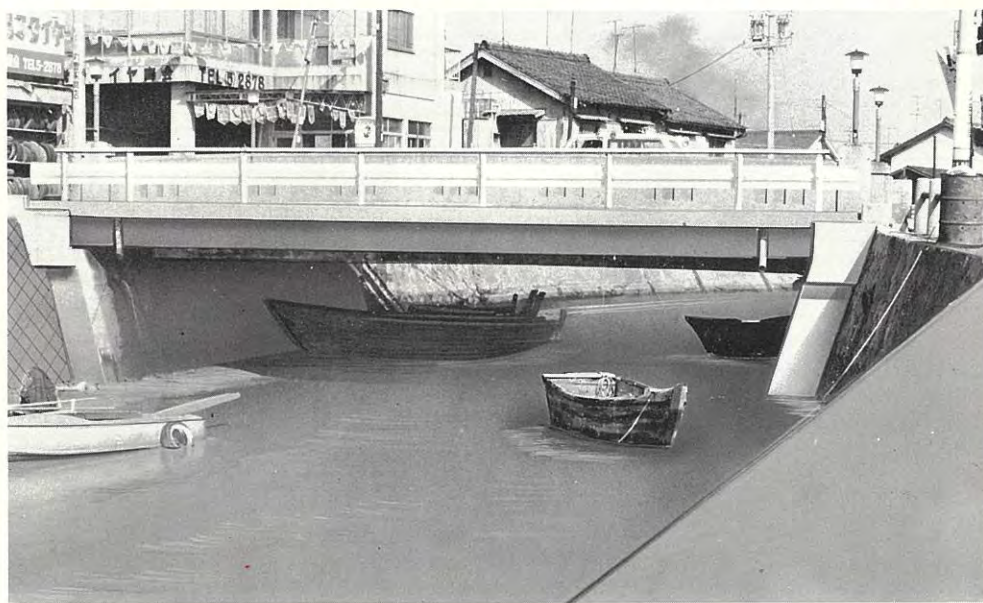
市道改良、舗装は重点目標の一つとして積極的に施工され現在までに市道51.6km、15.6%が舗装済み、42年度中では、11kmを舗装市道全体の15.6%にあたる。

このほか道路維持補修についてもグレーダーローラー、舗装補修器具を整え作業されている。



道 路

種 類	延 長	路 線 数	幅 員		路 面 の 状 況		
			4.5m以上	4.5未満	コンクリート 舗 装	アスファルト 防じん舗装	砂 利 道
2 級 国 道	9,877 ^m	2	9,877 ^m	^m	^m	9,877 ^m	^m
県 道	34,508	11	22,274	12,234	1,744	23,028	9,736
市 道	332,229	2,090	52,462	277,767	4,045	47,605	280,579
計	376,614	2,103	84,613	292,001	5,789	80,510	290,315



橋りょう

43. 3. 31

種 別	橋 種		延 長		面 積	
	永 久 橋	木 橋	永 久 橋	木 橋	永 久 橋	木 橋
2 級 国 道	6		24 ^m	^m	175 ^{m²}	^{m²}
県 道	35		207		1,211	
市 道	81	70	339	364	1,266	1,008
計	122	70	570	364	2,652	1,008

市東部の丘陵地にある小高い山は伊勢湾を見おろす眺望の地としてハイキング、憩の場として市民に親しまれているが、近年福祉行政の重点施策が行なわれ、市街地に公園づくりが進んでいる。

奥条地内にある常石公園はその一つで常石神社境内を利用し遊歩道を造成休憩所のあづまやをつくるなどりっぱな公園ができています。

公園



常石公園



山方御嶽公園

13号台風、集中豪雨、伊勢湾台風で多大の被害を受けた本市は排水施設の系統的充実を計り市民生活向上を目指して常滑、多屋、小倉地内に排水場を完成した。

また排水路については、昭和42年度浜田排水路が完成され、引続き昭和43年度から多屋北部排水路が工事着工された。

都市排水



小倉排水機

● 教育文化

公立学校

学校教育は「機会均等」の主旨から、小学校の統合、中学校の統合が行なわれ、その施設整備拡充には最大の配慮がなされた。

まず昭和33年9月、三和、大野の両中学校が統合され、青海中学校を設立、34年11月鉄筋コンクリート2階建の校舎を建設、その整備拡充をはかり、また34年には未曾有の大災害をもたらせた伊勢湾台風により各学校の校舎は甚大な被害を受けたが35年3月にいち早くこの補修工事を完了、同時に三和東、三和南小学校を統合し三和小学校を、大野、三和西両小学校を統合し大野小学校をそれぞれ設置し、36年3月に西浦北小学校は鉄筋2階建近代的校舎に、さらに38年には西浦、小鈴谷の両中学校を統合し南陵中学校を設置し第一期工事は39年8月完成、第二期、第三期の全体計画を44年に完成させ鉄筋3階建の近代校舎となった。このほか常滑小学校、鬼崎北小学校、鬼崎南小学校の校舎は鉄筋3階建近代校舎に改築され、さらに各学校に屋内運動場を計画、年々建設されており、教育に対する施設の整備拡充はめざましいものがある。



南陵中学校

市立幼稚園、小学校、中学校規模

昭43. 5. 1 現在

校別	園 児 ・ 児 童 ・ 生 徒 数			学 級 数	教 員 数	教員1人当りの児童生徒数	規 模			
	男	女	計				校 舎	運 動 場	校地総面積	構 造
三 和 東 幼	30 ^人	28 ^人	58 ^人	2	3	19	322 ^{m²}	321 ^{m²}	1,296 ^{m²}	木造平屋建
三 和 南 幼	40	50	90	4	5	18	760	2,526	6,020	〃
常 滑 幼	78	66	144	5	6	24	994	1,758	3,755	鉄骨平屋建
合 計	148	144	292	11	14	21	2,076	4,604	11,071	
三 和 小	176	176	352	11	14	25	2,444	9,610	14,355	木造平屋建
大 野 小	256	232	488	12	16	31	3,115	5,108	12,744	〃 ・ 鉄骨平屋建
鬼 崎 北 小	187	194	381	12	15	25	2,211	14,574	18,047	鉄筋コンクリート一部木造平屋
鬼 崎 南 小	369	369	738	19	23	32	3,231	5,974	17,716	〃 〃
常 滑 小	848	850	1,698	42	48	35	8,342	6,969	21,696	〃 〃 木造2階
西 浦 北 小	237	243	480	12	15	32	2,641	5,613	10,631	〃
西 浦 南 小	133	123	256	7	10	26	2,127	7,273	12,514	木造平屋建・鉄骨平屋建
小 鈴 谷 北 小	202	167	369	12	16	23	2,191	7,084	18,119	〃
合 計	2,408	2,354	4,762	127	157	30	26,302	62,205	125,822	
青 海 中	228	222	450	12	21	21	4,833	15,061	27,068	鉄筋2階、鉄骨平屋建
鬼 崎 中	244	240	484	12	20	24	3,807	21,230	47,164	〃 木造平屋建
常 滑 中	428	395	823	20	33	25	6,125	15,269	30,906	〃 〃 〃
南 陵 中	299	276	575	15	24	24	4,986	13,703	24,939	〃 3階 〃 〃
合 計	1,199	1,133	2,332	59	98	24	19,751	65,263	130,077	

県立常滑高等学校

制別	生 徒 数			学 級 数	教 員 数	教員1人当り生徒数	規 模			
	男	女	計				校 舎	運 動 場	校地総面積	構 造
全 日 制	491 ^人	643 ^人	1,134 ^人	22	51	22.3				
定 時 制	174	192	366	11	18	19.6	6,924 ^{m²}	26,545 ^{m²}	60,304 ^{m²}	鉄筋コンクリート4階・3階建 一部木造平屋

緑の学園づくりに

三つ児の魂百までという。幼児はものごとを素直に受け入れる。この素直な子供時代に、交通安全と情操教育が熱心に指導されている。年々近代施設に改築される市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校はいずれも将来緑の学園として構想され、植樹が行なわれつつある。小高い丘に建ち、伊勢湾を見おろし、緑に囲まれた学園での情操教育は子供らの将来に大きな期待をいだかせる。



常滑市民体育会館

「体育の日」がはじめて国民の祝日となった昭和41年10月完成、公民館と体育館の機能を有するユニークな建物である。館内には、サーキットトレーニング室が設けられ、健康で強く美しくをモットーに市民の多数がトレーニングに参加している。別に市民会館的な利用もされ施設利用は充分になされている。





市立図書館

42年度では1日平均63人が閲覧し年間28,852冊が閲覧されている。月別ではもっともよく閲覧されたのが3月の3,457冊である。

分類別蔵書数

44. 1. 10現在

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				合 計
総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	児 童	郷土資料		
875	524	1,558	1,370	696	600	206	1,121	239	4,836	3,321	687		16,033



市営プール

市営プールは、市内中央部の埋立地、鯉江新開に昭和37年3月着工され同年7月20日に完成した。毎年6月から9月末日まで一般市民の利用に供され附属設備も完備している。

主な施設内容

50米7コース公認プール1面

25米9コースプール1面

幼児用プール1面、管理事務所1棟

ポンプ室1棟、プール循環浄化装置一式



常滑市学校給食共同調理場

通称学校給食センターとして昭和40年4月16日から給食を開始した。本センターは完全給食（A型毎週5回）を実施、給食費としては中学生1人43円、小学生33円、幼稚園33円、保育園25円である。

施設は鉄骨モルタル作り 529㎡、給食可能数 5,000食、現在中学校2校、小学校3校、幼稚園、保育園4か所に合計 4,900食の給食を実施している。本施設は大別して、調理室と洗浄室を区分して設計され、他にボイラー室、事務室、食堂、休憩室、倉庫、下水処理場、更衣室、冷蔵室が設けられている。調理員16人で午前8時30分に作業開始12時30分までには各学校へ配達を終える。さらに本年度北部地域に1か所設置が計画されている。

昭和43年度給食実施人員

	学級数	生徒数	職員数	計
常滑中学校	20	820	35	855
南陵中学校	15	577	26	603
常滑小学校	42	1,696	51	1,747
鬼崎北小学校	12	381	16	397
大野小学校	12	493	16	509
常滑幼稚園	5	144	8	152
常滑保育園	6	270	13	283
常石保育園	4	167	8	175
西浦北保育園	4	150	7	157
合 計	120	4,698	180	4,878

調理場設備一覧

ボイラー	2	運搬車大型	2
食器消毒保管庫	3	ク 軽四	1
ライス・ボイラー	7	食器洗浄機	2
皮剥機	1	揚物機	1
調理台	3	ミルク二重釜	3
下流し	1	総合調理器	2
上流し	4	野菜切さい機	1
食缶消毒槽	1	保温食缶	250
配達ワゴン	21	手運搬車	3
戸付パンラック	1	自動フライヤー	1
ミルクナイザー	3		



樽水公民館



常滑市高等学院

常滑市高等学院は市内に就職している者を対象に修業期間3か年、市内の北部、中部、南部に教室があり、それぞれ近くの教室で教育を受ける。働きながら楽しく学べる高等学院として、特に働く若い女性が多い。

公民館・公会堂

市内に28か所あり、地区民の各種集会、研修等公民活動の利用に供されている。その施設も近年整備されつつあり大半は立派な施設となった。

体育協会各部人数

野 球 部	軟 庭 部	卓 球 部	相 撲 部	陸 上 部	水 泳 部	排 球 部	弓 道 部	バスケット部	硬 庭 部	空 手 部	スキー部	ソフト部	ヨット部	射 撃 部	計
1,000	50	250	40	30	30	250	70	120	50	100	45	360	30	35	2,460

団体別団員会員数

区 分	団体数	人 数
O A A	8	228
青 年 団	6	618
婦 人 会	6	4,092

学級別生徒数 43. 12. 1 現在

学 級 別	学級数	生 徒 数		
		男	女	計
高等学院	1	0	280	280
青年学級	4	264	239	503
社会学級	8	42	338	380

文化祭

毎年11月3日の文化の日を中心に文化の高揚と伸びゆく産業の発展を祝い、市民による各種の催しが市内各地で盛大に行なわれている。また市自治功労者及び自治文化、産業、教育等に尽した人々を表彰している。

● 社会福祉

社会福祉事業は生活保護をはじめ児童、母子、老人、身体障害者ならびに精神薄弱者の福祉各法の主旨にのっとり扶助・育成および更生のための業務が行われている。児童相談、心配ごと相談は毎月各地ごとに定期的に開設され利用されている。

施設のうち保育園13は全部市立であり幼稚園と合わせ16か所、市入園児を受け入れる十分な施設が整備され一部では乳児保育を開始するなど全国屈指の保育行政をとっている。



常滑保育園



常石保育園



鬼中保育園

児童遊園地一覧

44. 2. 1現在

施設名	認可年月日	敷地面積㎡
坂井児童遊園	35. 4. 1	1,564.2
北条	35. 4. 1	3,303.3
榎戸	39. 4. 1	1,650.0
多屋	39. 4. 1	980.1
奥条	39. 4. 1	653.4
大谷	39. 4. 1	1,388.4
常石	40. 4. 1	569.6
山方御嶽	43. 4. 1	1,300.0
蒲池	44. 2. 1	403.3

保育園一覧

44. 2. 1現在

園別	認可年月日	定員		実人員	保母数
		乳児	幼児		
三和西保育園	36.11. 1	0	90	75	4
大野	23. 4. 1	0	130	139	6
鬼崎北	29. 6. 1	6	143	191	7
鬼崎中	44. 1. 1	20	160	156	6
鬼崎南	27. 6.30	10	180	217	11
常滑	42. 8. 1	46	204	270	12
常石	42. 4. 1	15	160	165	8
常滑南	28. 6.19	0	125	223	7
西浦北	23. 4. 1	20	180	151	6
西浦中	31. 3.31	8	72	93	3
西浦南	25. 4. 1	0	90	108	4
鈴溪	31. 9.30	7	73	107	4
坂井	38. 4. 1	10	45	45	3
計 13園		142	1,652	1,940	81

民生委員、保護司配置と保護状況

44. 1. 1現在

地区別	民生委員保護状況			保護司
	委員数	保護世帯	保護人員	
三和	7	13	22	4
大野	5	12	16	3
鬼崎	11	15	28	5
常滑	18	59	102	6
西浦	9	13	26	4
小鈴谷	7	6	9	3
計	57	118	203	25

生活保護状況

42年度

種別	世帯	人員	金額
生活扶助	延 1,034	延 2,040	8,429,928円
教育	477	1,018	977,188
住宅	260	520	568,444
医療	690	821	7,954,309
生業	10	10	80,000
出産			
葬祭	4	4	27,375
計	2,475	4,413	18,037,244

公営住宅

人口激増のない本市は、住宅問題では困窮とまでには至らないがよりよい生活向上を目指して年々約20戸市営住宅が建設されている。
この市営住宅は将来の住宅建設の計画もあって、

住宅地帯としての開発の一環ともなっている。
さらに榎戸地区に建設された鉄筋3階建の県外からの就職者用宿舍 112戸があり、住宅対策は本市に合った着実な施策が行なわれている。



公営住宅一覧

44. 1. 1現在

	第 1 種		第 2 種		計	
	戸数	面積㎡	戸数	面積㎡	戸数	面積㎡
木造	10	346.50	130	3,909.18	140	4,252.68
簡易耐火	45	1,599.29	32	1,025.6	77	2,624.89
計	55	2,055.79	162	4,934.78	217	6,880.57

母子福祉資金貸付状況（貸付中のもの）

44. 1. 1現在

事業開始資金		支度資金		事業継続資金		住宅資金		修学資金		計	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
8	910,000円	4	65,000円	5	390,000円	4	400,000円	64	4,000,000円	85	5,765,000円

●保健衛生

保健衛生は、市民生活に直接関連のある重要な事業であり、公衆衛生の現場機関である知多保健所とともに、市民の健康管理にあっている。

一般住民を対象に行なう結核検診、腸パラチフス予防接種、40才以上の成人病予防検診、幼児の生ポリオワクチン投与ならびに百日咳予防注射など、きわめて活発に保健予防活動を実施している。

昭和37年には全国結核予防会から予防と患者管理の功績を認められ表彰を受けている。



結核健康診断

年度	区分	該当者数	受診者数	ツベルクリン反応検査			BCG 接種者数	X線及び精密検査		患 者 発見数	発病のおそれある者
				実施者数	陽 性	陰 性		間 接	直接精密		
42 年 度		31,804	21,722	11,749	8,881	2,659	1,828	17,278	957	94	444

過去3か年度の法定伝染病発生状況

年度	区分	赤 痢	疫 痢	腸チフス	日本脳炎	ジフテリア	猩紅熱	小児マヒ	計
39 年 度		38			1	1			40
40 年 度		208		1	1		1		211
41 年 度		27		1			1		29
42 年 度		67			1	1			69

火葬場使用状況

年度	区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
42 年 度		31	45	25	41	42	33	45	42	61	69	49	39

予防接種実施状況

種別	年度	42 年
痘 そ う	第1期	869
	2 々	807
	3 々	765
ジ フ テ ア	第3期	808
	4 々	765
ジフテリア混合 百日咳	初回免疫	804
々	第2期	571
腸パラチフス	初 回	599
々	追 加	15,273
急性灰白髄炎		604
インフルエンザ		8,702
日 本 脳 炎	初 回	3,044
々	追 加	10,123



ごみ処理

ごみは、生活の向上、人口の増加などに伴い、排出量の増加、ごみ質悪化の一途をたどっている。この都市衛生上緊急を要する問題として苦慮されていたごみ処理について、隣接武豊町と一部事務組合を設立し、この問題解決のため武豊町地内に1日30トンのごみ焼却炉を完成した。現在 8,300世帯について週2～3回収集する。

ごみ処理状況

年度	区分	収集人口	1日収集量	年間収集量	埋 立	農村還元	焼 却 場	委 託 料
39 年 度		28,395 ^人	16 ^t	4,846 ^t	55 ^t	160 ^t	4,631 ^t	7,569 ^{千円}
40 年 度		30,136	17	5,036	97	—	4,939	8,812
41 年 度		36,535	21	6,227	328	—	5,899	13,028
42 年 度		37,135	21	6,261	352	—	5,909	13,748



し尿処理

し尿処理は、現在市民の要望に応え、連絡と同時に収集できる体制にありバキューム車5台で業者に委託している。この処理場は隣接の半田市および武豊町の2市1町で組合を設立しごみ処理の隣接地に38年9月1日 135キロリットルの処理施設を建設し化学的処理に当たっている。

し尿処理状況

年度	区分	汲取人口	汲 取 量	農村還元	海洋投棄	し尿処理場
39 年 度		25,850 ^人	9,503 ^{kl}	74 ^{kl}		9,429 ^{kl}
40 年 度		28,093	10,553	293	4,444 ^{kl}	5,816
41 年 度		28,599	10,588	245	376	9,967
42 年 度		29,980	10,898	—	—	10,898

●治安

本市の治安にたずさわる横須賀警察署は本市に派出所1、駐在所8所があり、警察官25名が配置されている。このほか住民の防犯体制として防犯協会があり、市内に28名の防犯支部長と400名の防犯委員が配置されている。



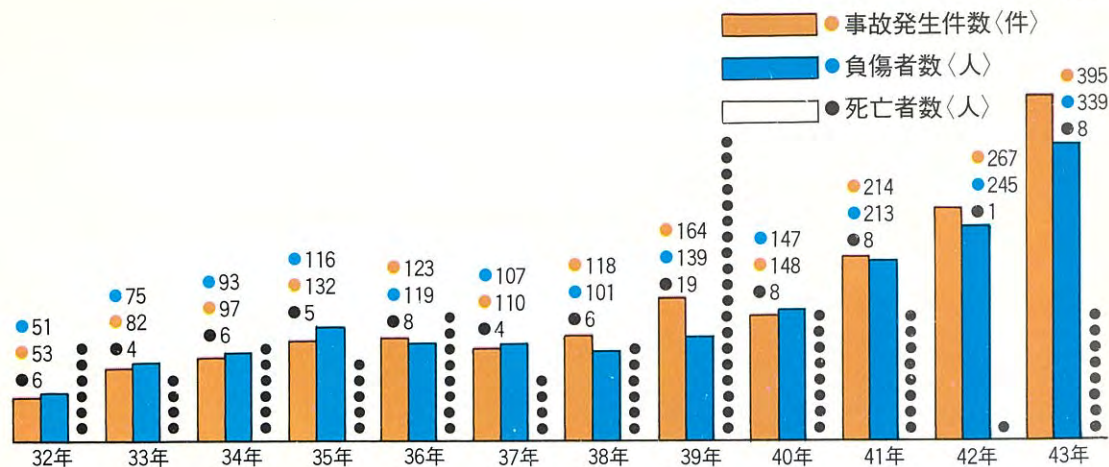
市内での犯罪発生検挙状況

区分	年別	42 年 年		43 年 年	
		発 生	検 挙	発 生	検 挙
窃 盗	盗 犯	174	153	230	91
詐 欺	欺 害	4	2	3	5
傷 害	害 害	12	12	14	14
恐 喝	喝 害	7	7	3	3
暴 行	行 暴	5	5	4	4
強 姦	姦 強	4	4	4	4
強 盗	盗 強	0	0	0	0
殺 害	害 殺	1	1	1	1
放 火	火 放	5	5	0	0
失 火	火 失	8	8	6	6
そ の 他		12	12	15	15
計		232	209	280	143



交通安全

年次別交通事故発生状況



43年月別交通事故調

月	発生	死者	傷者
1月	22	2	19
2月	23	0	18
3月	31	0	23
4月	23	0	22
5月	24	0	22
6月	34	3	28
7月	43	1	41
8月	50	0	38
9月	42	0	32
10月	32	0	28
11月	28	0	28
12月	43	2	40
計	395	8	339

本市の重要な施策とされている交通事故防止は、年々急増する自動車に加え自動車交通量の激増は交通事故の激増につながり、昭和39年には19名の死亡者を出すにいたり、市長、市議会を先頭に全市一体となって交通事故防止運動が展開された。

43年3月には市の中心部に交通安全センターを完成、市内全児童が訓練さらに老人クラブ、青年団、ママさん、事業所と各種団体もこのセンターを交通安全道場として事故防止のための努力がなされている。



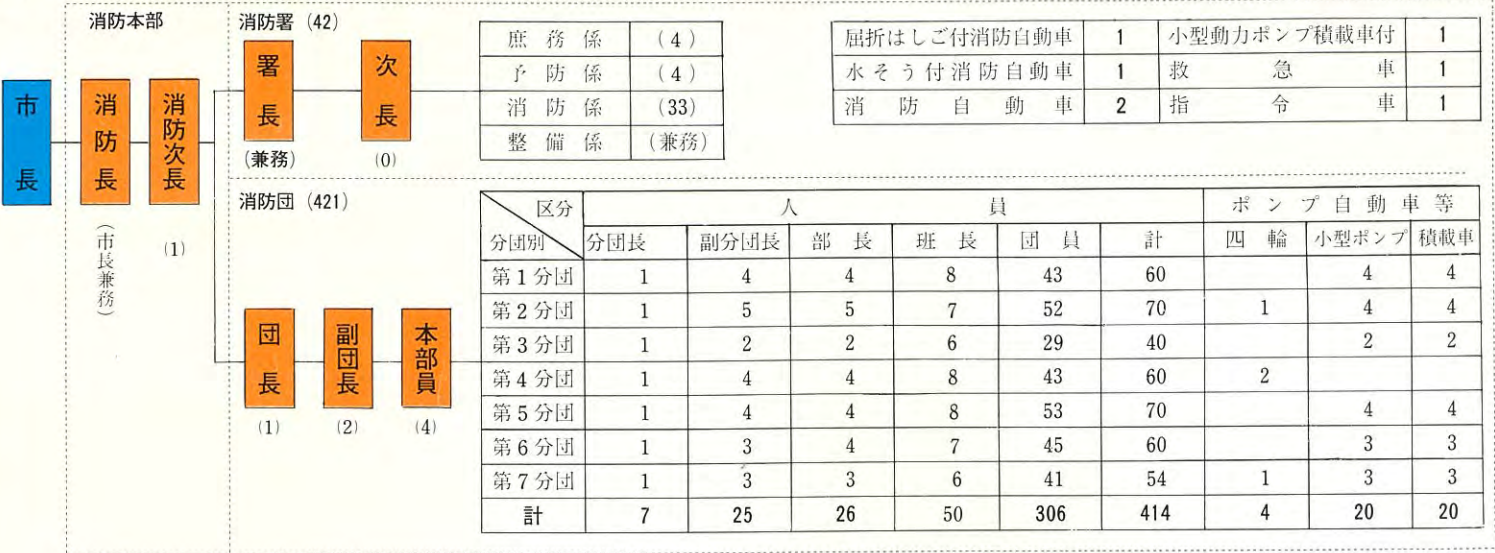
● 消 防

水火災から住民の生命、身体および財産を護る消防は本市が海岸線が長く、台風、津波等による災害の防除および火気を多量に取り扱う窯業地を主体とした産業都市であることから、水火災の予防およびその被害の軽減に特に重点がおかれている。

昭和29年市制施行とともに、消防団も従来の地域的消防団を脱皮し、機械化、少数精鋭主義をとり、昭和31年統合、さらに昭和40年1月常備消防本部、署を設置すると同時に庁舎を市街中心に建設、年々その施設の強化を図ると同時に消防団をさらに再編成し、一方、市民に対しては水火災の予防思想の普及がなされている。



組織、人員、機械



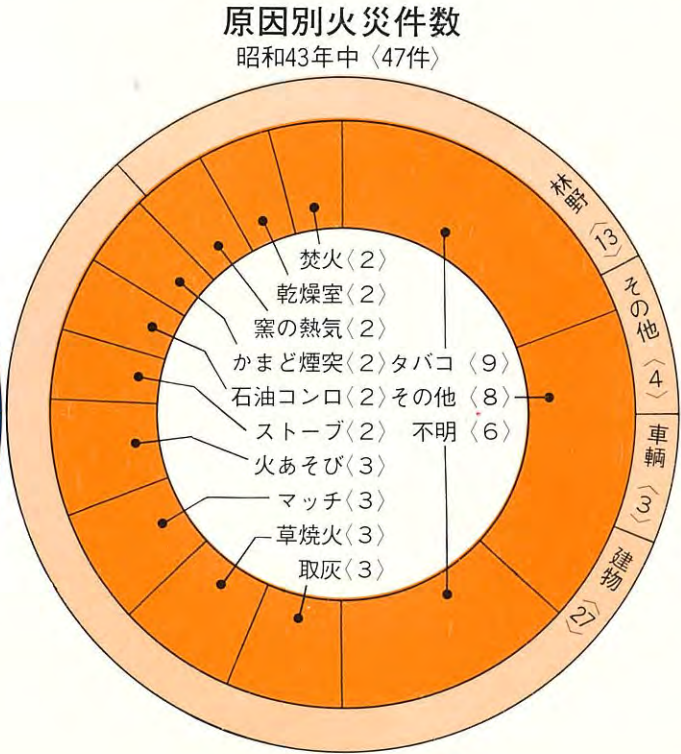
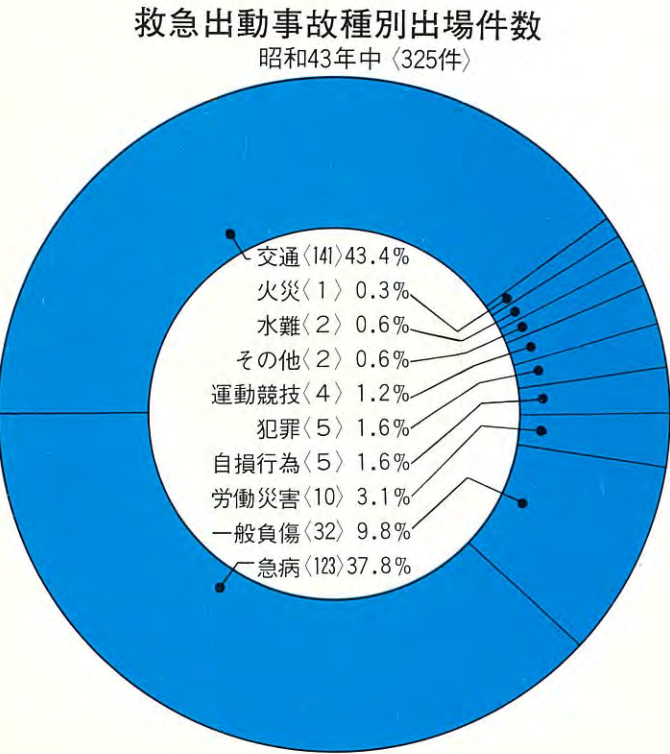
市内水利等			
貯水そう	消火栓	火の見	サイレン
9	41	1	2
28	81	2	2
17	74	1	0
27	85	0	1
33	91	2	3
10	23	2	1
14	47	2	2
138	442	10	11

過去10年の火災発生件数と損害額

区分	年別	3 4 年	3 5 年	3 6 年	3 7 年	3 8 年	3 9 年	4 0 年	4 1 年	4 2 年	4 3 年
件数		22	8	12	20	9	16	51	38	46	47
損害額 (千円)		11,421	16,203	1,104,925	17,501	12,712	83,505	46,566	15,153	9,702	11,960

月別火災発生件数および救急出動回数

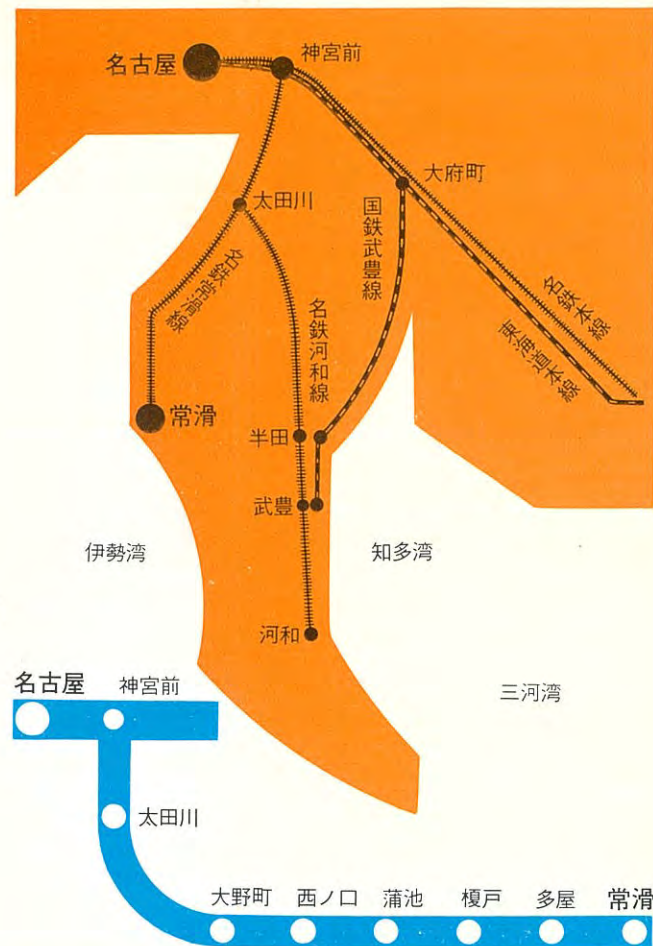
月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
火災発生	3	10	9	5	1	3	1	2	2	1	4	6
救急発生	34	17	20	20	24	32	24	28	23	29	27	47



交通

本市は中部圏の核心名古屋市からは名古屋鉄道常滑線の終点常滑駅に45分で到着する。市内には6駅があり1日平均2万余人の乗降がある。これら乗降客の大半は名古屋方面への通勤、通学であり、このほか観光地知多半島南端あるいは東海岸の半田市方面へは終点常滑駅から知多バスが利用される一方、自動車では名古屋から国道247号線が南下し本市と結んでおり交通の便は良い。朝夕の通勤時に自転車、バイクの多いのも本市の特徴である。

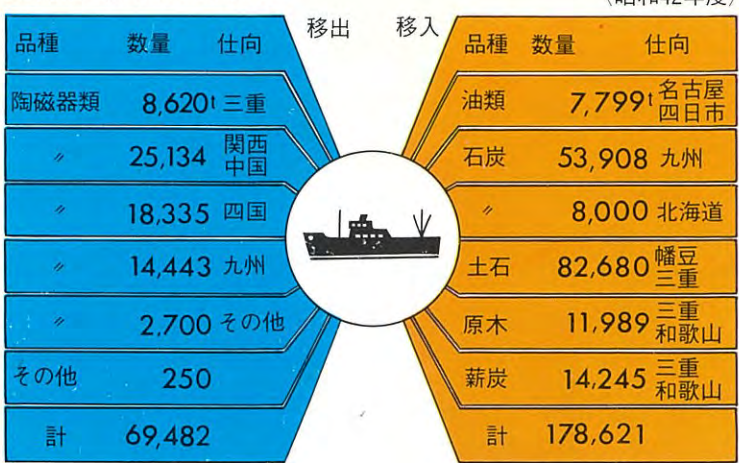
更らに本年国道 247号線のバイパス路線産業道路の測量調査が開始された。



市内の自動車数は近年著しく増加し、合計14,132台は一世帯に1.16台の保有になり全国平均を上廻っている。

本市の市街地が海岸沿いにほそ長い形態であり、電車終点常滑以北の6駅、ならびに常滑駅に通ずるバス路線の各駅えは一部を除きいずれも徒歩で10分以内の距離にある。

常滑港移出入状況



名鉄電車市内各駅乗降数

		昭和43年			
駅 別		乗 降 客	計	1 月 平 均	1 日 平 均
常 滑 駅	乗 降	1,710,242 1,699,699	3,409,941	284,161	9,342
多 屋 駅	乗 降	117,686 117,279	234,965	19,580	643
榎 戸 駅	乗 降	369,405 369,696	739,101	61,591	2,081
蒲 池 駅	乗 降	256,319 256,199	512,518	42,709	1,404
西之口駅	乗 降	257,244 257,450	514,694	42,891	1,410
大野町駅	乗 降	1,543,328 1,536,421	3,079,749	256,645	8,437

市内自動車台数

種 別	2 輪 車				小型特殊 農 耕 用	そ の 他	軽 自 動 車			3 輪		ト ラ ッ ク			小型普通 乗 用 車	バ ス	合 計
	50cc	90cc	125cc	125cc以上			3 輪 車	4 輪貨物	4 輪乗用	1 t 未満	1 t 以上	3 t 未満	3 t 以上	ライトバン			
台 数	2,813	2,010	748	226	645	9	895	2,586	643	163	357	830	283	542	1,358	24	14,132

知多バス常滑駅乗降客

月 別	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平 均
1 日 平 均	3,165人	2,631	3,724	3,286	4,165	3,738	3,813	4,243	4,676	4,089	4,216	4,434	3,850



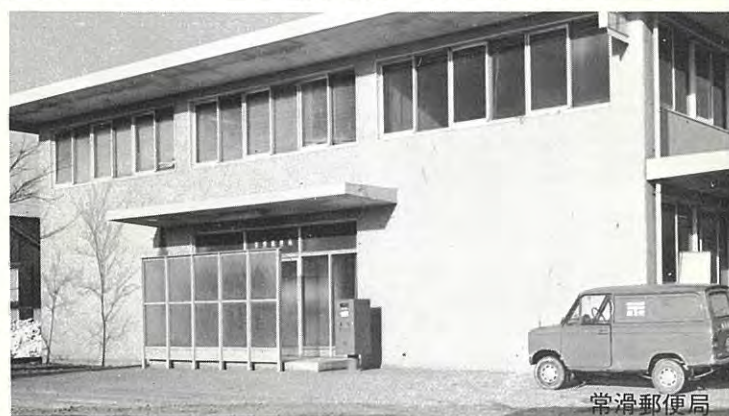
通信



有線放送交換室



常滑郵便局



常滑郵便局

郵便集配の敏速化能率化をはかるため市内の郵便局は38年11月に機構改革を実施して集配の一本化をし、常滑郵便局を普通化に昇格させた。

このほか市内には集配特定局1、無集配特定局8の合計10局があり、41年中の郵便物集配状況は、引き受けが普通郵便物約220万通、小包約2万4千個となっている。一方配達数は市民一人当たり約70通となり引き受け数に比べ3割ほど多くなっている。

郵便物集配状況

局名	種類	普通郵便		特殊郵便		普通小包		特殊小包		計	
		引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達
(普通)常滑郵便局		1,901,650	2,641,140	18,980	68,255	13,505	44,895	2,555	3,650	1,936,690	2,757,940
(集配特定)小鈴谷々		287,255	349,670	1,982	3,880	730	3,650	85	483	290,052	357,683
無集配特定	尾張大野 々			9,485		3,844		305		13,634	
	尾張三和 々			860	9	95		30	7	985	16
	鬼崎 々			2,727		1,417		118		4,262	
	多屋 々			1,844		917		79		2,840	
	山方 々			4,769		1,721		222		6,711	
	樽水 々			2,641		804		323		3,768	
	尾張西浦 々			3,771		834		167		4,772	
	坂井 々			685		433		51		1,169	
計		2,188,905	2,990,810	47,744	72,144	24,300	48,545	3,935	4,140	2,264,883	3,115,639

電報発着信回数

	40年度		41年度		42年度	
	国内	国際	国内	国際	国内	国際
発信	13,593	427	12,374	324	14,156	260
着信	16,386	379	15,690	266	17,679	350
中継信	23,014	0	16,624	0	11,424	8
計	53,798		45,278		43,867	

電話加入状況各年12月

()内は構内交換機数

区分	29年			35年			40年			43年		
	単独	共同	構内交換	単独	共同	構内交換	単独	共同	構内交換	単独	共同	構内交換
常滑局	767	20	1	1,208	52	20	1,981	166	(9)	2,745	210	(10)
尾張大野局	351	32	3	729	86	3	709	709	(35)	2,197	44	(40)
小鈴谷局	74	12	—	153	26	—	211	20	(3)	290	26	(10)
計	1,192	64	4	2,090	164	23	2,901	895	(12)	5,232	280	(14)

●市民生活

有線放送

本市合併当時、市内の電話局4局加えて待時式という不便さは行政面でも市民生活の上でも大きな支障となっていたが、昭和35年12月同一市内即時通話と農事放送を目標に市内7農協が出資して常滑市有線放送連合会を設立、36年6月には電話機保有数6,070台と全国でも屈指の大規模な集中方式による有線放送電話を開始した。以来加入数も増加、現在7,900台常滑市民の「耳」として大きな役割りを果たしている。

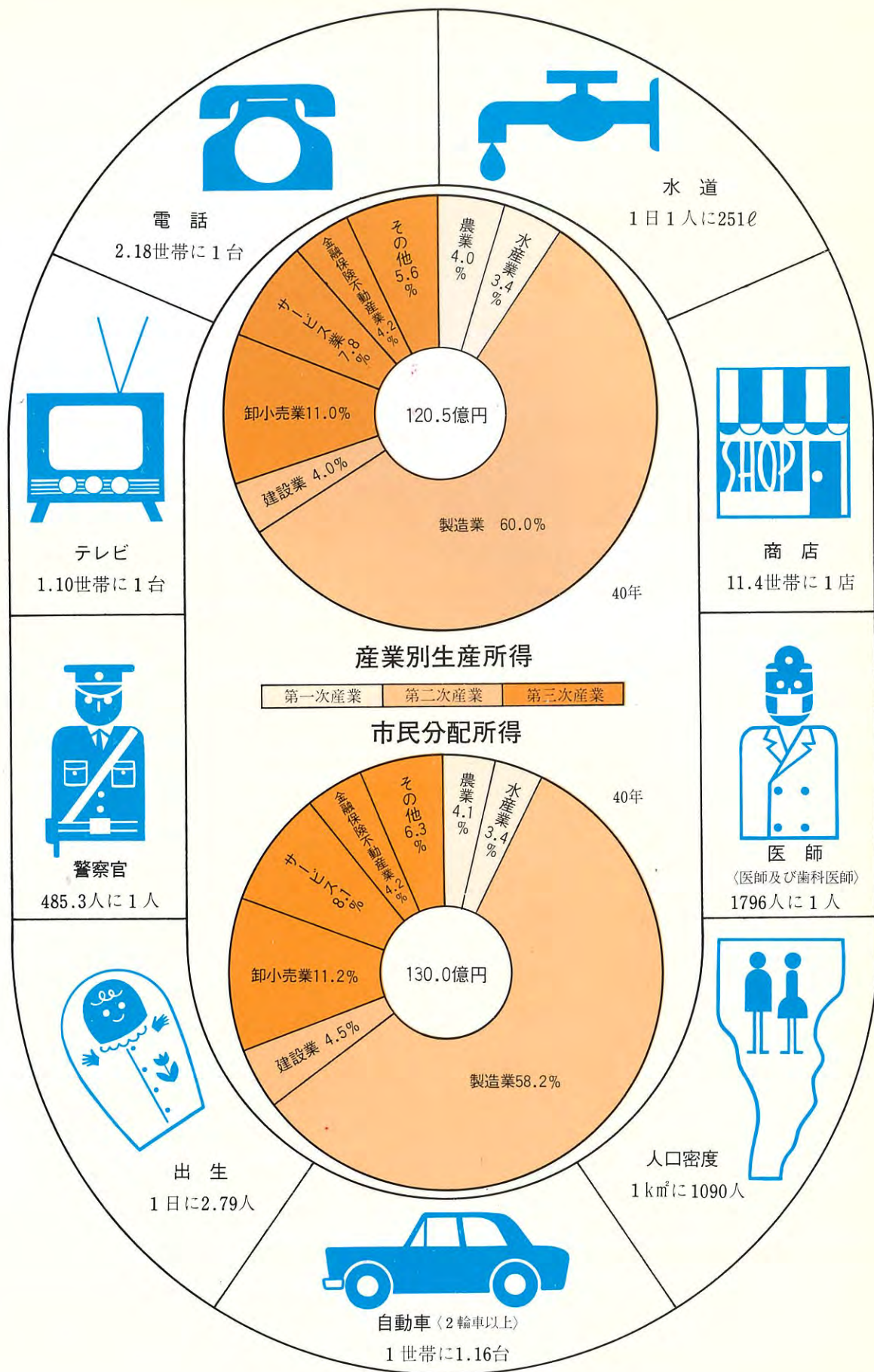
有線放送利用状況 42年度

依頼受付別	放送回数
市役所関係	2,475
青年団婦人会	1,507
農協	314
漁協	42
警察	189
学校	203
郵便局	43
農業普及所	89
一般	367
宣伝	2,344
その他	499
合計	8,074

テレビ・ラジオ

視聴取契約数 各年3月31日現在

区分 年別	テレビ	ラジオのみ受信
30年	7,233	50
35年	7,427	3,142
40年	9,968	993
43年	10,986	1,199



● 観 光

鬼崎ヨットハーバー▶

鬼崎ヨット・ハーバーは日本屈指の最適地として名古屋大学を始めとし大学、実業団の艇庫が置かれており、大型艇約30隻、小型艇約120隻が基地として利用している。太平洋を横断した「チタ2世号」グループの基地であり、毎年全国のヨット競技が行なわれ東海地方最大のヨット・ハーバーである。海洋活動のための施設も近々着工される予定で東海地区の海に親しむ者の利用に供される日も近い。



大野・坂井海水浴場▶

市内には大野海岸と坂井海岸に海水浴場がある。このほか砂丘のある鬼崎地区の海岸一帯も海のレジャーを楽しむ人で賑わう。ことに家族連れで賑わう大野海水浴場は潮湯治といわれ、古来から親しまれた海水浴場として世界最古といわれている。

名古屋中心部から40分の近距離にあり、波静かな伊勢湾に近代的施設を完備し、家族ぐるみのレジャーに快適な県内有数の海水浴場である。遠浅の坂井海岸は春の潮干狩りに夏は海水浴、海釣りでも賑わう。

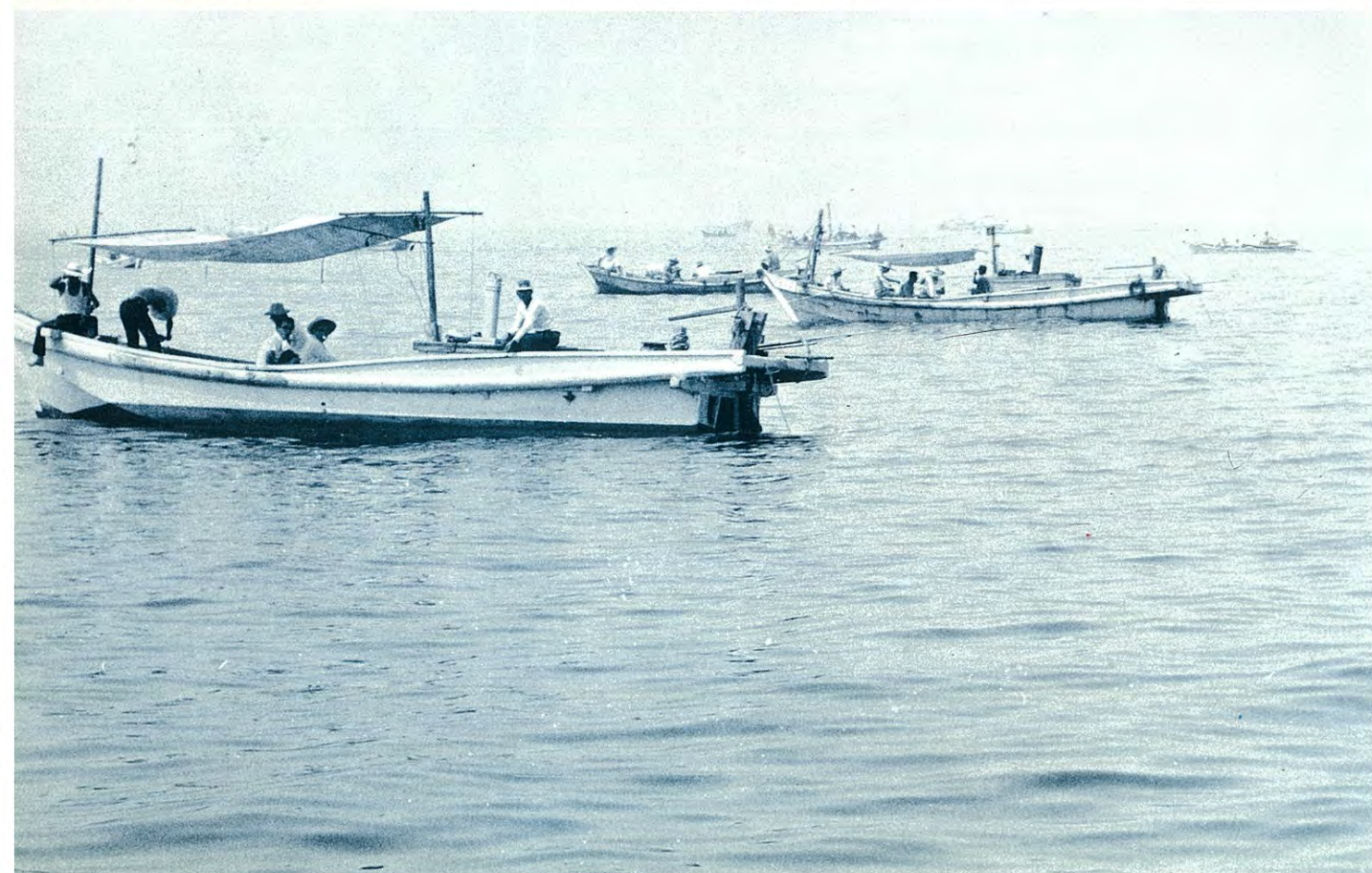




絵付け ◀

だれでも、いつでも、きがるにやき物にしたしむ絵付け。書、画、座右銘などのオーソドックスからサイケ調までいろいろ。

絵付けの良さはたのしみながら陶芸に接し、特色ある地域芸術の理解と認識を深めることにある。市立の陶芸研究所の工房は一般にも解放されやき物の研究とリレーションを兼ねて絵付けに訪れる人は絶えない。



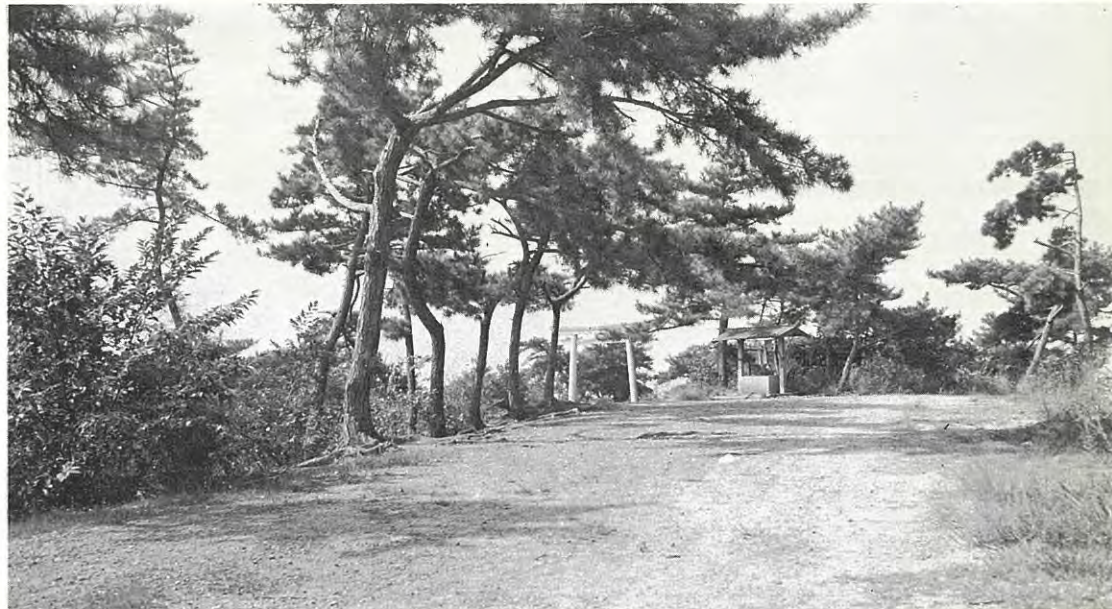
海釣り ◀

伊勢湾に臨む海岸線一帯は沖釣り、磯釣りが盛ん。沖釣りは常滑、鬼崎および大野から釣り船がでて、キス、コチ、マダカ、タコ、フグ、ズイ、カニなどよく釣れる。春から秋にかけて釣り大会も盛んに開かれる。磯釣りは海岸一帯の防波堤で、アイナメ、キス、チンタなどが釣れ、一日中太公望を味わう人も多い。

本宮山▼

知多半島第2の高地である本宮山は戦前国際航空路の要所として 350 万燭光の灯台があった。伊勢湾および三河湾を一望におさめ、眺望雄大なこの山は、ハイキング、キャンプ地として最適である。

山頂に本宮祠を祀り、毎月 1 日が参詣日である。



古窯跡◀

今から 900 年前、平安末期から鎌倉、室町末期にかけて市内丘陵部一帯に 3000 をこえる窯がきづかれ、世界にも類例のない壮観さを呈していたものと推定される。

これらの窯は山腹の砂層に穴を掘って、そのまま窯にした「穴窯」で附近の雑木を燃料にして焼かれたようである。特に市内東北部簗池地内の古窯跡は県文化財となっている。

雪舟慧可断臂図▶

重要文化財の雪舟慧可断臂図は市内大野地区齐年寺所有である。

禅宗の開祖ダルマが北支の小林寺で毎日壁に向かって坐禅をしていると、雪の降る夕、のちに第2祖となった慧可（えか）が弟子入りをこうた。徹夜して雪中に立ったが許されず、ついにヒジを切ってささげた。それを描いたものである。雪舟77才の作品である。





祭 礼 ◀

市内の祭礼は春祭りとして4月中旬に一せいに
行われる。この日は山車、催しものと地区ごと
に多彩を競い、全市を祭り気分であきたたせる。

高讃寺・仁王像 ▶

高讃寺は天武天皇勅願の霊場といわれ、往古300
の坊宇があったが、数度の兵火で焼失し現在は
残りの一字のみであるが、境内の仁王門と周囲
をおおう松、桜、楓が茂り寺蹟をしのばせる。
仁王門にある仁王像2体は鎌倉時代の作、この
ほか本造の阿弥陀如来立像、聖観音菩薩立像（
平安時代の作品）がありいずれも県文化財の指
定を受けている。

大野城趾 ▼

大野町駅から東南へ2キロ、西之口駅から東へ
1キロ、大野佐治時代にわたる城趾であり、本
市北部と伊勢湾を一望におさめる、眺望佳麗の
地、隣接は青海団地が造られ山容は一変して明
るく拓かれた。



常滑市指定文化財

●有形文化財

- | | |
|----------|-----------------|
| 竹腰三信公の石塔 | (榎戸龍雲寺所在) |
| 鯉江方寿翁陶像 | 世界最大の陶像(瀬本地内所在) |
| 鰐口2点 | (大野海音寺、久米盛泉寺所在) |
| 古過去帳 | (大野東龍寺所在) |
| 弥生土器 | (陶器館保管) |
| 縄文土器 | |
| 磨製石剣 | |

●無形文化財

- | | |
|------------|--------------|
| 常滑焼工法(紐造り) | (技術保持者松下松長氏) |
|------------|--------------|

●民俗資料

- | | |
|----------|--------------|
| 白鷗碑 | (保示正住院所在) |
| あやつり人形の首 | (大野内宮御祭宮社所蔵) |

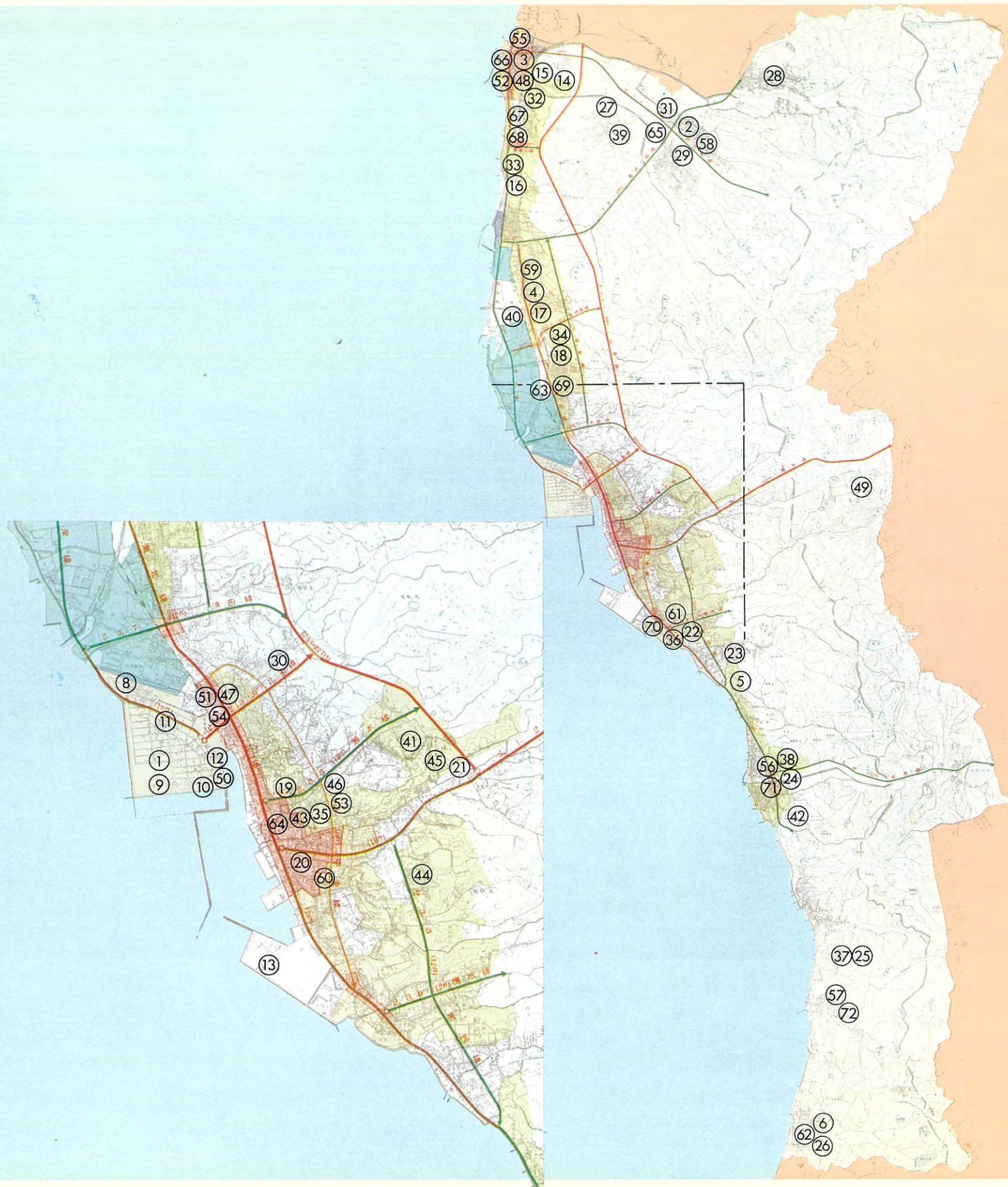
●史 跡

- | | |
|---------|-----------------|
| 桧原山古窯址群 | (西暦1100年頃からの古窯) |
| 高坂山古窯址群 | (西暦1100年頃からの古窯) |

- | | |
|--------|-----------------|
| 多屋古窯址群 | (西暦1100年頃からの古窯) |
| 常滑城址 | (山方地内) |
| 大野城址 | (宮山地内) |
| 石瀬貝塚 | (石瀬地内) |

●天然記念物

- | | |
|------------|--------------|
| びやくしん(いぶき) | (大野平野昭三氏宅所在) |
| 樹令 660年 | |



市内官公署一覧

電話市外局番 常滑〈05693〉大〈05694〉小〈056901〉

市内官公署一覧

	名 称		所 在 地	電 話	有 線
①	常 滑 市 役 所		字鯉江新開476	代(5)5111	1～7
②	三 和 出 張 所		久米字東前田46	大(2)0142	10
③	大 野 出 張 所		大野町字十市鍛76の1	大(2)0001	11－1
④	鬼 崎 出 張 所		榎戸字浜田93の2	大(2)0475	13－1
⑤	西 浦 出 張 所		熊野字南馬場32	(5)2369	15
⑥	小 鈴 谷 出 張 所		坂井字中田12	小 4	16
⑦	常 滑 市 教 育 委 員 会		字鯉江新開476	代(5)5111	7－1
⑧	常 滑 市 民 病 院		字鯉江新開1の1	代(5)3170	17
⑨	常 滑 市 営 プ ー ル		々 476	(5)2797	20－6
⑩	競 艇 事 業 部		々 475	代(5)2031	20－1
⑪	常 滑 市 民 体 育 会 館		々 14の83	(5)4611	18－2
⑫	常 滑 消 防 署		々 46	(5)2600	119
⑬	学 校 給 食 共 同 調 理 場		字保示400	(5)4001	40－2
⑭	常 滑 市 立 三 和 西 保 育 園		金山字郷前7	大(2)0769	224－25
⑮	常 滑 市 立 大 野 保 育 園		大野町字十砂54	大(2)1400	28－1
⑯	常 滑 市 立 鬼 崎 北 保 育 園		西之口字上ゲ61	大(2)0612	30－1
⑰	常 滑 市 立 鬼 崎 中 保 育 園		榎戸字金荒子182	大(2)0772	32－4
⑱	常 滑 市 立 鬼 崎 南 保 育 園		多屋字名残82の2	(5)2877	32－1
⑲	常 滑 市 立 常 滑 北 保 育 園		北屋敷8	(5)2437	34－1
⑳	常 滑 市 立 常 滑 南 保 育 園		字市場93	(5)2723	40－1
㉑	常 滑 市 立 常 石 保 育 園		字樋掛43	(5)4823	19－2
㉒	常 滑 市 立 西 浦 北 保 育 園		樽水字平井147	(5)3147	42－1
㉓	常 滑 市 立 西 浦 中 保 育 園		西阿野字西御堂92の1	(5)3152	44－1
㉔	常 滑 市 立 西 浦 南 保 育 園		古場字廻間55	(5)4100	46－1
㉕	常 滑 市 立 鈴 湊 保 育 園		大谷字井戸尻13	小 164	48－1
㉖	常 滑 市 立 坂 井 保 育 園		坂井字中田12	小 55	16－2
㉗	常 滑 市 母 子 寮		金山字屋敷30	大(2)0771	26－1
㉘	常 滑 市 立 三 和 東 幼 稚 園		矢田字東根組37	大(2)0143	22－1
㉙	常 滑 市 立 三 和 南 幼 稚 園		金山字平井120	大(2)0774	24－1
㉚	常 滑 市 立 常 滑 幼 稚 園		字原松45	(5)2124	26－2
㉛	常 滑 市 立 三 和 小 学 校		久米字西郷18	大(2)0749	24－2
㉜	常 滑 市 立 大 野 小 学 校		大野町字砂鍛市120	大(2)1011	28－2
㉝	常 滑 市 立 鬼 崎 北 小 学 校		西之口字上ゲ61	大(2)0222	30－2
㉞	常 滑 市 立 鬼 崎 南 小 学 校		多屋字名残82	(5)2422	32－2
㉟	常 滑 市 立 常 滑 小 学 校		字屋敷田3	(5)2104	38
㊱	常 滑 市 立 西 浦 北 小 学 校		樽水字塩田75	(5)2164	42－2

	名	称	所 在 地	電 話	有 線
37	常滑市立小鈴谷北小学校		大谷字井戸尻2の2	小 21	48－2
38	常滑市立西浦南小学校		古場字栗下前5	(5)4002	46－2
39	常滑市立青海中学校		金山字南平井1 3 の 1	大(2)0331	26－3
40	常滑市立鬼崎中学校		榎戸字新田山1	大(2)0221	32－3
41	常滑市立常滑中学校		字土取畑10	(5)2375	36
42	常滑市立南陵中学校		刈屋字加茂10	(5)4005	48－3
43	常 滑 市 立 図 書 館		字屋敷田3	(5)2217	38－5
44	県 立 常 滑 高 等 学 校		字徳磯49の3	(5)2132	475－21
45	常滑市立陶芸研究所		字樋掛45	(5)3970	487－21
46	常 滑 陶 器 館		字屋敷田30の1	(5)2033	34－2
47	名古屋法務局常滑出張所		字中郷93の53	(5)2581	569－20
48	愛知食糧事務所知多支所常滑出張所		大野町字十市鍛76の1	大(2)0206	11－2
49	愛知県窯業技術センター		字三ツ池48の88	(5)5151	
50	愛知県半田土木事務所常滑分所		字鯉江新開474	(5)2045	592－30
51	愛知県知多保健所常滑支所		字鯉江新開57	(5)2537	569－16
52	愛知県常滑農業改良普及所		大野町字十市鍛76の1	大(2)0001	11－3
53	常 滑 電 報 電 話 局		字屋敷田46の1	(5)4245	
54	常 滑 郵 便 局		字中郷107	(5)2453	18－5
55	尾 張 大 野 郵 便 局		大野町字十市鍛31	大(2)0660	262－5
56	尾 張 西 浦 郵 便 局		古場字柳67の5	(5)4257	46－5
57	小 鈴 谷 郵 便 局		小鈴谷字梶田73の1	小 42	48－5
58	尾 張 三 和 郵 便 局		久米字東郷5の1	大(2)1908	
59	鬼 崎 郵 便 局		榎戸字新町南6163	大(2)1909	
60	山 方 郵 便 局		字山方118の1	(5)4258	
61	樽 水 郵 便 局		樽水字鳥出山4の6	(5)4259	
62	坂 井 郵 便 局		坂井字浜田6の3	小 45	
63	多 屋 郵 便 局		多屋字後条131－6	(5)4810	
64	愛知県横須賀警察署常滑警部派出所		字南屋敷63	(5)2410	1 1 0
65	〃 久米巡査駐在所		久米字西前田40－3	大(2)0742	24－10
66	〃 大野北 〃		大野町字新田北5の1	大(2)0352	28－9
67	〃 大野南 〃		大野町字砂鍛市	大(2)0046	28－10
68	〃 西之口 〃		西之口字郷中1の3	大(2)0248	30－10
69	〃 多 屋 〃		多屋字山際北114	(5)2645	32－10
70	〃 樽 水 〃		樽水字塩田84の1	(5)2423	42－10
71	〃 古 場 〃		古場字柳67の7	(5)4008	46－10
72	〃 小鈴谷 〃		小鈴谷字梶田25の2	小 19	48－10

常滑音頭

樋貝正幸 作詞
清水保雄 作曲



常滑音頭

作詞 樋貝正幸
作曲 清水保雄
振付 島田豊年

ハアー

一、陶都常滑港に街に

積んだ焼物大山小山
産業繁昌と木綿の織機も

おさのひびきで一囀し

ホイサ手拍子 トントン拍子

トント常滑よい調子

ハアー

二、誰と大野か小鈴谷かけて

浜は七色水着の花を

ボートレースのしぶきが呼べば

すべるヨットの帆も招く

ホイサ手拍子 トントン拍子

トント常滑よい調子

ハアー

三、木曾のたにみず黄金の穂波

寄せる小波夕日にはえて

熱い人情もいでゆの坂井

沖のえものは魚籠の中

ホイサ手拍子 トントン拍子

トント常滑よい調子

ハアー

四、浮ぶ灯台潮路を照らす

明日をさす手は踊りの手振り

ゆめも大きく伊勢湾抱いて

知多の要の伊達姿

ホイサ手拍子 トントン拍子

トント常滑よい調子

常滑小唄

樋原言賢 作詞
清水保雄 作曲

Slowly



常滑小唄

作曲 清水保雄
振付 島田豊年

一、陶都千年 繁昌のけむり

西へ東へ 日も夜もなびく

八重の汐路の かぎりまで

二、わたしや常滑 窯場の娘
想いつのれば 千度をこえる
熱い炎の 恋もする

三、のりの色香に たもとをひかれ

浸たる湯けむり 大谷坂井

小夜のしおさい 夢のなか

四、海はるり色 大野の浜辺

波は手招く しぶきにぬれて

可愛い人魚の みだれ髪

五、知多の木綿に 肌さえ匂う

粹なゆかたの あの娘の酌で

地酒よいよい とんとろり

六、遠くかすむは 鈴鹿が伊勢か

君のヨットは 鬼崎あたり

樂し沖釣 なぎ日和

七、海のギャンブル ころもはずむ

うなるエンジン 風呼ぶレース

かける幸運 波の花

八、伸びる常滑 栄える街よ

五色モザイク 七色タイル

世界いろどる ころ意気

昭和44年4月1日発行

常滑市勢要覧

発行 常滑市役所

編集 企画課

印刷 平和堂印刷

